



90号 350円

無意識の加害者 田代慶子

3

△あごら△のこれからを小樽で模索

8

国立婦人教育会館女性学講座に参加して

13

△あごら山口△を名のすることにしました

15

“禁等法”の周辺で

旭川から

4

国会で語られた“禁等法”社労委会議録その2

19

臨教審・年金・禁等法と相変わらず風雲急

37

鉄連裁判支持デモは9月13日

38

女のつどい・女の講座

39

可能性教室秋の新講座

40

各地の〈あごろ〉へどうぞ(カッコ内は
例会日と会場)

- あごろ旭川(第3土曜・13時30分—16時)
・北海道上川郡東川町西5号南3 小坂啓子
・電話 0166=82=2598 〒071-14
- あごろ札幌(毎月13日喫茶「のあ」)
・札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイツ琴似
408号 細田英理子
・電話 011=644=2927 〒063
- あごろ仙台(時間、会場とも流動的)
・仙台市高松1—10—65—102 渡辺早苗
・電話 0222=71=0274 〒983
- あごろ柏(時間、会場とも流動的)
・千葉県印旛郡白井町大山口1-7-20 桑原もゑ子
・電話 0474=91=4843 〒270-14
- あごろ新宿(時間、会場とも流動的)
・新宿区新宿1-9-6 斉藤千代
・電話 03=354=3941 (BOC) 〒160
- あごろ武蔵野(第4土曜・19時)
(かわら版事務所)
・小平市小川町1-763-86 丹羽雅代
・電話 0423=43=6749 〒187
- あごろ京王(第2水曜14時—16時)
(福井宅または調布婦人会館)
・調布市仙川町3-12-32 福井浅子
・電話 03=308=7871 〒182
- あごろ湘南(時間、会場ともに流動的)
・平塚市公所478 小川まり子
・電話 0463=58=6707 〒564
- あごろ東海(第4木曜・10時—12時半)
・愛知県愛知郡東郷町白鳥4-5-1
押草団地113—305 石川方 加藤登紀子
・電話 05613=9=2308 〒470-01
- あごろ京都(第2日曜・11時—16時)
・京都市左京区一乗寺築田町56-1 塚崎美和子
・電話 075=791=4623 〒606
- あごろ大阪(第3日曜・11時30分—15時)
・吹田市岸部中1—29—4 藤井里子
・電話 06—387—6574 〒564
- あごろ山口準備中(第1日曜・11時—17時)
(森川宅)
・下関市長府黒門東町1—15 森川万智子
・電話 0832=46=3181 〒752
- あごろ九州(第2土曜・14時30分、第4土曜)
(18時30分、福岡市立婦人会館)
・福岡市中央区筥丘2-4-6 小島サカエ
・電話 092=521=7624 〒810
- あごろ佐世保(第2・4金曜10時30分—
12時、佐世保市立図書館)
・佐世保市瀬戸越町1415-25 内田佳崇
・電話 0956=49=8591 〒857-01

来 年 7 月 の ナ イ ロ ビ 会 議 に 向 け て ツ ア ー を

国連婦人の十年最終年を総括するナイロビ会議は、85年7月9日—17日民間会議、15日—26日政府間会議が予定されています。メキシコ会議、コペンハーゲン会議と連続参加してきた八あごろは、今回も有志で参加することになりました。

とはいえ、今回の会場はアフリカ。メキシコ会議にもまして、先進工業国の女子の意味が問われることになりましょう。アフリカの飢えとは何か、第三世界と女の問題、日本の女の状況など、共同学習を重ねながら、私たちの旅を一緒につくっていきませんか。

参加ご希望の方は、参加希望日、希望のコースなどを書いて、左記にご連絡ください。

〒160 東京都新宿区新宿1の9の6八あごろケニアの旅V係

無意識の加害者

田代 慶子

会費を滞納していました。

そのうち、そのうち、と思いがち、目先の支払いを優先させている日々でした。

へあごろが財政危機だと知っていたながら、それは頭の中だけの理解でしかなかったのかもしれません。

滞納者が六百人にふくらめば、赤字は滞納分だけで年間四百三十二万円にもなるのだという現実。そして、一人一人にとってはなにげない怠慢も、積もり積もれば事務局の人たちの首を締める結果となり、へあごろの存続も危うくなっていくのだということ。――めつきり疲れやすくなっている斉藤千代さんを目のあたりにし、「こわばった顔で本づくりをしていたから、中味が硬くなったのかもしれない」との声を聞くに及んで、無意識だっ

たとはいえ、彼女らをそんなにもゆとりのない情況へと追いやっていた側の一人として、謝っても謝りきれない気持ちでいっぱいになりました。

やれる人がやれる時に、ちょっと無理かもしれないことを進んで引き受け合うなら、お互い、こわばった顔とは無縁でいらるれことでしょう。たとえば、最近の『へあごろ』が硬すぎると思うのなら、やわらかい原稿を、一枚のカットを、送ってあげることが、実のある批判というものではないだろうか。

「優しさを風化から防ぐには、真に知ることから始まる」――この度の小樽での運営会議に参加して、私のつかんだ一番の収穫はそれでした。

(一九八四年九月三日)

禁等法の周辺で

へあぢら旭川より

自己解放を模索中

木久 真智栄

七月初旬、再就職につながるスクーリングに出席のため、二泊三日、家をあけました。

たまのクラス会でさえ、三次会へと流れる多数派に加わりたい気持ちをおさえてあたふたと戻ったあげくに、ぶつくさ言われるのが常でしたから、そして今回も足を引っぱってくれるばかりなので、許可？を待たずに出發したのです。会場と宿泊所の電話番号をメモし、三日分の食費を袋に入れ、置き手紙しで出かけたのでした。

翌朝、七時過ぎにモーニングコールを入れたら、電話口に出たのは小学生の娘で、既に起きていた由。明るい声だったので安心して

受話器を置きました。ところが一時間ほどして、今度は夫からの電話。

「帰って来なくてもいいからな。お前の顔なんか見たくもない。残りの金はどこにあるか言え」と凄むことしきり。

「今、どこからかけてるの？ 職場、休んだの？ 食費なら、あれで足りると思うけど。月曜日には帰るから」と私。

よくよく聞くと、車が盗難に遭ってこわれた状態で見つかったから、交通費と修理代とであと五万円は必要だという。

「残りのお金は貯金しちゃったのよね。印鑑は持って来ちゃったし、困ったわねえ。なんとかしてくれない？ こっちは始まったばかりで、今すぐ帰るというわけにもいかないもの」(だって、泥棒さんに妨害されたくらいで安易に譲歩してしまっただけでは、今回の折角の行動が水泡に帰してしまいますから。再就職したいという私の気持ちは生半可じゃな

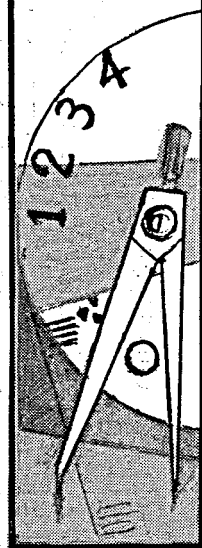
いのよ。それをわかってくれないような夫なら、私だっていらぬい」と、そこは心の内で呟いて、かるうじて踏みとどまったのでした。

その夜、こちらからの電話に夫は出ず、子どもたちが交互にその日のできごとを手短かに伝えて寄こします。やがて、

「お父さんがね、怒ってるってさ」と長男。
「月曜日に帰る予定だったけど、日曜日の夜中に着く汽車に乗るようになるからって言う」といて」

(シマッタ。私って、どうしてこうも譲り癖が染みこんでいるんだろう)

三日目。戻った先に何が待ち受けているかわかりはしないというのに、やっぱり旭川行きの夜行列車に乗っていました。帰る早々玄関先で暴力をふるわれるかもしれない、打ちどころが悪ければ即あの世行きということだではないとは言いきれないのです。自らの解放



を願ったことが、かえって束縛をふやす結果になってしまったかもしれない、と思いました。でも、夢の実現も見ないままで死にたくない。怪我もさせられたくないかない。

第一、あやめられるほどのことをした覚えはないのです。私に落ち度があったとすれば、説得不足のままで出かけたという一点だけ。

それにしても、当の本人が午前様の経験など皆無だというならいざ知らず、自らの行動にはすこぶる寛容でありながら、妻の行動にはいちゃもんつけずにいられぬ程度の人間ではないなら、渡りに舟、今が別れどきであろうと覚悟を決めて、我が家に向かう坂道を登り続けるのでした。

女の子

京田 初美

花の三十五歳、中年真最中の私。女の子がほしい——と強く願っていたのですが、なぜか男の子二人の母親なのです。私も昔々は女の子でして、平均的に世間に制約を受け、親におさえつけられて成長したので、もし女の

子が生まれたなら、けして型にはめこまず、自由をかちとる人間になれるよう助力したいと強く望んでいたのですが、現実はいまぐちきません。

そんななかで、長男が小学一年ということでお友達の範囲がグーンと広がった最近、男の子、女の子の遊び方が、まったくちがうのです(この傾向が当地だけの現象であればよいのですが)。男の子は自転車で群れを組んで町内をあちこち移動しながらの遊びなのですが、女の子の集団は、あまりみかけません。人数的には同じ程度の割合のはずなのです。お母さんたちにも「娘にお友達がなくて困っている」という類の話が多く、なにかがおかしいな?と考えていました。

さらに二度ほど、私の印象に残った場面に出会ったのです。

ひとつは、兄(中一)と妹(小四)の兄妹ゲンカなのです。二人はジュースの取り合いで兄の意に反して妹の服にそれが少々かかってしまったのです。兄は(こりやますいゃ)という顔をしてひきさがります。妹は大声をはりあげて泣き叫び、車の中に(皆外にいたものですから)とじこもります(声だけ皆に聞こえるようにして)。これは他人の目にも

妹の大げさな様子が手にとるようになるのにもかかわらず、両親は、兄をこっぴどくしかり、妹をなだめすかしてご機嫌を取ります。とくに父親が娘におっかなびっくりといったかんじで取り入るのです。

さらにもう一つは、マイクロバスの中で、やはり姉と弟の二人のことなのです。父親が弟(四歳)に、しきりによびかけます。「ほら、勇気を出して、座席をのりこえて、おとうさんのところまでこい」と。四歳の男の子にとっては、動くバスの中で四列後方の父の席まで遠く感じたのか、なかなか行動がおこせません。しかし数回のやりとりの末とうとう父のひざの上にすわるのですが、そのときの父親のよるこびようは、大変なものでした。

さてこれらが問題なのですが、姉(小二)が弟のように、座席をのりこえて移動したとたん、あのよるこびいっばいの父親はなんと言っただけでしょう。

「人の前を(その人は私なのですが)そんなふうには歩くなんで失礼でしょう」

女の子は、しいたげられています。家長制度が廃止されたと言いながら、自由社会だと言いながら、暗黙のうちに男尊女卑が認められ、男社会が大手を振ってまかり通っている

のです。いったい昔女の子であった母親は、この状態をどう自分自身に納得させているのでしょうか。

女の子はしいたげられています。女の子だからという言葉によって、現在の女の子の大部分は、どんなのびるべくすばらしい芽をつみとられているのです。同性の大人の女の、男への、へつらいによって。

小学校の一年から、男は群れをなして外をかけまわり、女は家の中で大勢の友達とも遊ばず、じくじくとうずくまっている状況に、男女の役割分担の原型のようなものを感じるのは、私の考え過ぎなのでしょう。

家事労働について

那須 友子

家事以外に少しばかり収入の入る仕事を、ここ二年ほどして、つくづく思うことは、仕事をしている女性にとって家事が如何に重圧となつてのしかかっているか、という感慨である。生来の不器用さといひ、私の場合一層その負担感を感じているのだと思う

のだが、つい二か月ほど前に同じ仕事をしてゐる女たちとの雑談の中で、いみじくも隣にいた人が私に言った「奥さんがほしいと思うことはない？」という言葉に深く頷かずにいられなかった。

逆に今の自分の立場からわかることは（それは以前から頭の中では自明のこととしてわかつていたことなのだが）いかに今の世の中が男性に働きやすくできているか、ということだった。もしも、もっと仕事に打込める時間があったら、あれもしたい、これもしたいと思うことがいろいろあるのだが、その前に食事の用意、子どものこと、家の中のことに注意をむけなくてはならない。言い古されたことだが男性が百パーセント自分のエネルギーを仕事に投入できるのに比べて、家庭を持つ女は家事・育児に手足をとられ、思うように能力を発揮できないでいることがどんなに多いことだろうと今さらながらつくづく思う。その解決をいくら声高に言ったとしても、また自分の家庭でそのような状態を変えようと努力しても、一朝一夕に、こちらの思うように、スナナリ行くことはまずなく、血のにじむような毎日の努力をつづけるしかないことも少しずつわかってきた。

仕事をしていようが、いまいが、家事は女がするもの、という固定観念は抜きがたく、夫、子ども、そして私の中にさえ染みついていて、簡単に消えそうもない。

多分、それは今まで専業主婦であった私の状態が影響していると思うが、仕事をはじめたからといって、役割分担意識がガラリと急に変わるわけではない。毎日の悪戦苦闘の中で自分なりに納得のゆくような形をつくり出したものの、と思つてゐるのだが、一体いつになったら実現できるのであろうか、目下のところ暗中模索の状態です。

私の力

小坂 啓子

今年、札幌で「合成洗剤を追放しよう！全道交流シンポジウム」に参加した。これは、札幌の「合成洗剤追放の条例制定を求める運動」が市議会でも否決された後で開かれたもので、少しどんよりした空気で進行していたが、その中で美唄市の消費者協会会長、伊藤みえ子さんの力強い発言があった。

「消費者運動は文化なのだ。私たちは文化をつくっているのだ。私たちの情報で私たちの文化をつくっていく。石けんを使う文化、合成洗剤を使わない文化を強固に築いていったら、市の食堂も給食もみんな石けんに替えられるんじゃないか」

私は水に打たれたような気持ちであった。

そうだ、私たちは文化をつくっているのだ。私たちの生きる姿勢そのものが一つの文化なのだ。平塚雷鳥の青踏が、今日こんなに多くの女たちに受けつがれているように、私たちの文化は必ず、より多くの人々に受けつがれていく。私たちは文化をつくっているのだ。

男女平等、反戦反核、自然保護等を訴えていくこと。常に自分の中に意識を持続させること、それが文化をつくっていくのだ。既成の文化も、良かれ悪しかれ、長年の積み重ねがあったものであれば、私たちの文化を浸透させるのにも、やはり長い年月かかるのだ。意識の流れを変えるのには、百年かかると聞いたことがある。百年、——気の遠くなるような気がしていたが、一つの文化として定着するのであれば、決して長すぎる年月ではないのであらう。

行政に訴えていくやり方が運動ではないの

だ。むしろ大切な手段ではあるが、自分たちの思想を、より多くの人々に納得してもらうことが根本なのだ。少なくとも我が子が受けつげばそれでも二倍三倍になる。樂觀論になつてしまつたが、微力な私でも、一つの文化を創造しているのだ、という発想に勇氣を得て、努力していきたいと思う。

私の氣にいつている茨木のり子の詩を口ずさみながら。

もっと強く

茨木のり子

もっと強く願っていいのだ

わたしたちは明石の鯛がたべたいと

もっと強く願っていいのだ

わたしたちは幾種類ものジャムが
いつも食卓にあるようにと

もっと強く願っていいのだ

わたしたちは朝日の射すあかい台所が
はしいと

すりきれた靴はあつさりとして

キュッと鳴る新しい靴の感触を
もっとしばしば味わいたいと

秋・旅に出たひとがあれば
ワインクで送つてやればいいのだ

なぜだろう

萎縮することが生活なのだ

とおもいこんでしまつた村と町
家々のひさは上目づかいのまぶた

おーい小さな時計屋さん

猫背をのぼし あなたは叫んでいいのだ
今年もついに土用の鰻と会わなかったと

おーい小さな釣道具屋さん

あなたは叫んでいいのだ
俺はまだ伊勢の海もみていないと

女がほしければ奪うのもいいのだ
男がほしければ奪うのもいいのだ

ああ わたしたちが

もっともつと貪婪(どんらん)にならないかぎり
なにごともしないのだ

白い風立つ小樽で発想の転換を

8月25・26日 84年度第2回運営会議

思いきって発想を変えようと、北の港、小樽に集まったことは、想像以上のすばらしい結果になりました。

会場は明治の金物問屋、魚藍館。堂々としたレンガ造りの三階建て。漆塗りの障子のさんにも、一尺角の柱にも、重い歴史が刻まれ、私たちの暮らしが失っていたものを久しぶりに思い出しました。

全国各地から十名、地元札幌から十一名、夜を徹しての語り合いは、議事録として紹介するだけでは惜しい内容、思わず「一冊の本になるわね」の声が出たほどです。運動論に関する部分は、十一月の92号に札幌の編集でまとめられることになりました。細かい部分を省略して、今月は取りあえず概要を――。

「禁等法」に代わる

私たちの「平等法」を！

署名を集めながら隣の人に語りかけよう

署名活動には全員賛成、事務局の提案、各委員からの修正案を叩き台に逐条審議、別紙のような案をまとめました。法律家など専門

家とも相談のうえ、原案をつくり、十月から署名活動を開始、十二月の国会に提出します。署名活動すると、いろいろな質問されるんでしょう。アンチョコがほしいなあ。

・89号を繰り返し読めばいいんじゃない？

・「これを読めばわかります」って、89号をすかさず買ってもらおうよ。

・東京でまとめるの？ それとも拠点で？

・各拠点で出したほうがいいのでは？ 地元の議員さんを紹介議員にして。

・どの党の人に？

・原則として△あごろ△は無党派派ね。参議院なら中山千夏さんがいるけど、衆議院は完全無党派の女性議員がいらないし、思いき

って、各党に依頼するのも方法かも……。

・さあ、この内容でどんな人が引き受けてくれるかしら。引き受け手をまずみつけないとね……。紹介議員の諒解をまずとることが手続上必要みたいよ。

◆署名用紙を91号に綴じ込める。

◆数だけを集めるのが目的ではなく、署名を機会に、身近な人に話しかける。

◆十一月末までに集約。

◆各拠点で集約するところは拠点に、拠点に加わっていない方は事務局に送る。
◆案文の修正意見、紹介議員その他についての意見は、九月末までに事務局に連絡を。

月刊「あごろ」はどうも硬い
どうすればみんなの「あごろ」に
していただけるかなあ

最近の『あごろ』は、情報誌として貴重だと、活動家の間ではすごく好評。でも、主婦層からは「硬い」との声も。

・読者層をどこに置いているのか。活動家だけではない「働く女と主婦の接点」というところが『あごろ』の特徴なんじゃないの。

・量と質のせめぎあいがついて回るのは仕方ないけど、活動家とあたりまえの女（といをう言い方もおかしいけど）をつなげるものがほしいなあ。

・東京ならでは、△あごろ△ならでは、情報、地方にいとすごく貴重。

・でもね、「拠点だより」から私は読んじやうの。

・私も後ろから読み始める。脈々とした温かさがあるから。

・事務局では、このころ、すごく「こわい顔」をしてつくってたような気がする。だから硬くなったのね。

・『ミニ』の初めの頃はおもしろかったけど。時代の変化ということもあると思う。これだけ緊迫した事件が次々に起こると、事務局だって「こわい顔」になるでしょうよ。

・「硬い」って責めるよりは、一人ひとりの息づかいのこもった文章を送らない？

・カット一枚でも送って頂くと助かるなあ。担当拠点以外は原稿を送れない、みたいに見える人が多いみたいだけど、いつでも誰でも投稿できるのが月刊なの。

・硬い文章ばっかり載っていると、ついビビっちゃう(笑)。

・まず私からヤワな原稿を送りましょう(笑)
・拠点同士連絡をとりあって関連あるテーマをリレー式に取り上げようって提案が以前あったけど、事務局に頼らずに、もっと積極的に連絡しましょう。

・各拠点で長年あたためてるテーマもあるんですよ。

・思いのこもった原稿が結局読み手にもいち

ばん伝わるみたいね。

・各拠点に編集部員を置くのは？

・拠点だよりの原稿集めるだけでアップアップなのよー！！

・原稿送らないのは遠慮の部分もあるのね。こんなのじゃ「あごろ」のレベルに達しないんじゃないかって……。

・なりふりかまわず出しゃばり精神、がハあごろVなんじゃないの。

結論

◆こんなふうに話し合ったことを、明日と言わず、きょうから実行しよう。

財政ピンチすこく深刻

どうすればつぶれずに続けられる？！

・昨年会費を値上げしたこと、内容が硬くなったこと、余波を受けてか、昨年八月十五日の会費入金に比べると、ことしは百五十名減。このままでは冬の特集は出せない……。

・月刊の内容をやわらかに(賛成多数)

・特集を年一回に(さびしい。ほかに替わりがあればいいけど)。

・特集を年一回にして、会費を六千円に戻す(猛反対続出。やむを得ず上げたものを下げるのはおかしい)

・維持会員大募集(賛成)

・カンパ大募集(賛成)。

・ほかの団体は寄付金集めが実に上手。運動を支えるために必要だと説得される。

・前金切れ三か月前から予告が入るところもある。(お金があればできるが、事務局の現体制ではどうしてもむり)。

・雑誌だけで黒字にするのは無理では。映画会、リサイクルバザーなどを開こう。

・図書館や書店に注文を出そう。

・「東海BOCV」では4/5号をネタに「主婦の壁を破るセミナー」を企画。会費一万円で募集したら十人参加(一同、瓜のアカでものみたい表情)。

・「あごろ」を売って自分ももうける運動を。商売というためらうみたいだけど、売ることが婦人運動を広めることにつながるのだという位置づけを育てていきたい。たとえば「婦人展望」を売ることが政治に関わることになるというブライドを有権者同盟の人が持つてるように。

・新入会の人、思うように使えるお金のない人には、まず思いでつながりたいという気持ち強く、会費は出さなくても拠点の会員としては迎えている。顔を合わせている

と会費を集めやすくなる。

・札幌からは毎年拠点の会費をまとめて送って下さるので、とても助かる。

・月刊のみ送られてくる // 月刊会員 // 制はできないかしら。

・現在でも、年間四千八百円の // ミニ会員 // は少数ながらいる。

・事務局に営業担当者、いつもお金、お金とお金のことばかり考えている専従が必要。

・事務局内に置く財政的余裕はない。会員から大蔵大臣を募集したい。

・月刊の表紙の紙や色を毎号変えたら、紙もインクもまとめて安く買ったので、でも現実には前の号と区別がつきにくく、集会などで売りにくくて困っている。

・手弁当主義では活動は広がらない。集会などでの本売りも、実行すれば下手なパートよりはいい収入になるのだし、積極的に広げたい。働く女が専業主婦にオンブにダッコの形になりやすい現状は考えもの。

・人手とお金で解決のつく問題は多い。

・出版の運転資金を株主方式で募っては？

・お金を出すことで運動に協力したい人もいると思う。窮状をPRしないので気がつかないのでは。

・財産を遺贈するよう遺言しておくとか。

・運動をするにはお金がかかることは、運動する人ならみんな知っている。今まで続けてこられた陰には、少数の人の大きな犠牲があったと思う。できるだけみんなで分担していくことも運動では……。

・各拠点の名産品交換はどうかしら？

・拠点の交流を深める意味でもいいわね。

◆年会費は据え置き。

◆少しでもカンパを。

◆会員・誌友とは別に維持会員を募集する。一口五千元。二口以上の会員には月刊と特集を一冊ずつ送る。

◆貸出し用フィルム等のリストは事務局にあるので、希望者は問い合わせる。

◆月刊を柔らかくするため、企画・投稿等に積極的に参加する。

◆提供できる特産品・名産品のリストを至急出し合う。

◆新年と暑中見舞のメッセージを募集。一コマ五千元。

決 定

わかしの『あごら』はよかった
という声も多いけど
今の『あごら』をどうしていこう
古い『あごら』を読み返してみると、すごい。あの頃は、長い間自分が求めている。

た本に、やっとめぐりあったという観があった。『あごら』をつくり続けている人、読み続けている人たちが、どんどん活動家的になり、昔の『あごら』ではあきたりな

くなった気持ちにはよくわかるけど、今のままでは、△あごら▽がいちばん大切にしていた // 普通の人々がついていけなくなる。

△あごら▽は学習体なのか、運動体なのか。情報を得る、学習するということは活動を

はらむことではないの。

・『あごら』は、明治の『女学雑誌』、大正の『青路』と並ぶ歴史的意義のある雑誌だ

と思う。『あごら』をつくり続けることが

やっぱり活動の中心ではないかしら。

・『あごら』をつくることによって、他団体との関わりも深くなり、東京でも各拠点でも、集会・署名集めその他、いわゆる // 運動 // との関わりが深くなり、中心になる人

はからだがもたない状況になっている。

・いい情報誌をつくらうとすると、どうしても自分で運動の中に飛び込まなければつ

れないけど、現実にはからだもたなくなっ

ているのは事実。資金をどうつくるか、担

い手をどれだけやすすが、切実な問題。あれもこれでも体がもたない。私の中心

はここ(それがへあごら)。それぞれの重点をもつて互いに関わっていくことが、他の人、他の団体を認め合うことにもなる。

・活動家となって巣立っていく人にもへあごらVは心のふるさとであり続ける。

・同時に、本を読んで月一回学習するのが精一杯の人たちも大事にしてほしい。

・グリーンナムコモンの女たちのキャンプは年中無休で活動を続けているけど、担い手は時々入れ替わっている。//活動家//は実質的には少数だけど、デモには何万も集まる。そういう潜在的エネルギーをはらむ運動、そして非暴力、地方分権の運動がへあごらVの目指すものと一致するのでは。

・へあごらVは、いわゆる活動家からは軟弱だと言われるけど、へあごらVをわらってた人たちが途中でやめていく中で、へあごらVの人たちは、確実に、自分を、自分の周辺を変えてきた。

・でも、その充電期間、実際に動いて支えている人をどう支えるの。みんな、ふるさと、ふるさとと言うけど、実家の母はだんだん過疎になっていく(大笑い)。

・//実家の母//をどう育てていくのか……。へあごら札幌V呼びかけ人の山口里子さん

は、毎月「あごらの日」を決めてたじゃない。その日は何が何でもへあごらVのことをやるんだっていう日を。

・運動体としてのあり方、核をどうつくっていくのか、どの拠点も同じ悩みを持ってるみたい。ぜひ拠点会議を開こうよ。

・メンバーには『あごら』という本に出会った人と、拠点に出会った人がいる。拠点から入った人にしてみれば、本をつくってる人のことも、その立場もよくわからない。

・札幌のへあごらの会Vは、そういう意味で大事。昼間集まる主婦グループは多いけど、女性解放の視点を持つてるのはへあごら昼の会Vだけだもの。「子連れで学ぶということ」というシンポジウムを他団体と共催したとき他の団体が「いかに子を育てるか」を中心にした中でへあごら昼の会Vだけが「自分がいかによく育つか」を問題にした。

・「心とからだ」を予定していた夏の特集を平等法に変えて、失望した方も多いと思うけど、平等法と「心とからだ」は無縁ではないのね。「心とからだ」は個人の問題であるけど、社会や文化ともつながる。自分の心とからだを、より楽にしようと思うと、//禁禁法//も考えこまずにはいられない

い。「心とからだ」はすごく重い問題なので、いきなり特集を出すよりは、月刊に毎号のせて、みんなで醸酵させていきたい。

・へあごらVに関わって十年、最初の五年は読んでるだけ。例会に関わりだしてからの五年の変化量のほうが大きいけど、本読んできることが、仕事やめようかと思ったとき大きな支えになった。いまの特集とのつながりが私はよくわかるけど、つながりがよくわかるような部分を、毎号ページをとってほしい。文章が難解だとは一度も思わないうけど、つながりがわからないので近づき難い感じになるのでは……。

ケニアにはやっぱり行こうよ

またへあごらツアーV組みたいネ

・//平等法//の署名だけでいいのかしら。男の労働時間短縮の請願もしないと、労基法改悪を防ぎきれないのでは？

・年金の改悪も大問題ね。十二月の国会で必ず、と所信表明してるし。

・そこまでやればいいけど、正直のところ平等法で精いっぱい(一同うなずく)。

・財政再建や、来年度の活動方針など、全会員にアンケートをとったら？

・とりたいたけど、いまは一円の支出も苦しい。
・意見のある方は、郵送料自己負担で送って
いただくことにしない？

・来年のケニアはどうするの？

・メキシコ、コペンと実績を重ねてきた人あ
ごらゝ、やっぱり行きましようよ。

・旅行社まかせじゃない人あごらゝアゝゝを
じゃ、みんな考えてみましょう。

◇

魚藍館大広間での四時間の討論の後、//与
兵衛寿司//で北の味覚を満喫しながら交流、
八時すぎから午前一時までは金庫室(何と二
十畳くらいの金庫室があるんです……)で、
//玉座//に座る人、寝ころがる人など、勝手
な姿勢で激論(写真がないのが残念デス)。
その後、雑魚寝をしながら朝方までおしゃべ
り。朝はアンノン族も知る//海猫亭//で、サ
ラダ、コーヒの食べ放題、飲み放題。そし
てまた金庫室で正午まで、おもしろおかしく、
かつマジな話。この経費めめて五千六百元。
会議後は//にしん御殿//と北一ガラスを訪
問、ランプのはやの下でお昼をとって、ニセ
コへ、積丹へ、函館へ、支那湖へ、それぞれ
の//北の夏//を過ごしました。

札幌の皆さん、ほんとうにありがとう！

「実効ある男女雇用平等法の制定を
求める請願」

【請願の趣旨】

現在国会に上程されている「雇用の分野に
おける男女の均等な機会及び待遇の確保を促
進するための労働関係法律の整備等に関す
る法律案」(以下「均等法」と略称)は、雇用
における男女の平等と母性の保障を確立する
うえで憂慮すべき問題点を多く含んでいま
す。最低限、下記諸点を削除あるいは修正さ
れることを請願します。

一、今回の「均等法」上程は、「女性に対する
あらゆる形態の差別撤廃条約」(以下「条約」
と略称)批准のための国内法整備を目的と
しております。したがって勤労婦人福祉法
の部分改正ではなく、法律案の「目的」に
「条約」の精神を盛り込み、雇用の全ステ
ージにおける女性差別撤廃を目的とした男
女雇用平等法の制定を望みます。

一、「均等法」に含まれている労働基準法改
正が実施されると、世界に悪名の高い日本
の男子の労働基準の線に女子が揃えられる
ことになり、健康破壊・家庭破壊を招来す
る心配があります。衆議院社会労働委員会
(昭和五十九年七月三日)に於て、外務省遠

藤哲也審議官は、「男女いずれの線に揃え
てもよい」と、また、労働省赤松良子婦人
局長は「より高い線に揃えられることが望
ましい」と答弁しておられます。「平等」に
関する法律は、法律が公布されても実効を
発揮するのには時間がかかりますが、労働
者保護の撤廃は即日効力を発揮するものだ
けに、労働基準法第八条の適用拡大を慎重
に審議することにとめてください。

一、募集・採用・賃金・配置・昇進・昇格・教育・
訓練・定年・退職・解雇・福利厚生など、雇用
における一切の男女差別は、努力義務規定
では、その解消は望み得ません。特に募集
採用差別は、雇用の入口に於て女性をシャ
ットアウトするものです。女性の労働権・
生存権確立のために各項を明文を以て禁
止してください。

一、差別的効力は、均等法第十三条ないし第
二十一条の規定では実効を期待できませ
ん。調査権を持ち、勧告命令を含む救済措
置をとれる機関が必要です。行政から独立
し、かつ、女性委員が半数以上を占める
「男女雇用平等委員会」を、中央・地方に
設置するとともに、申し立て人の不利益処
分を罰則を以て禁止してください。

幅広い人びとと交流

国立婦人教育会館女性学講座に参加して

伊藤 汎美

埼玉県にある国立婦人教育会館で毎年夏に「女性学講座」というのが開かれていることをご存じでしたか？ 私は寡聞にして知らなかったのですが、八月三・四・五日の三日間にわたって行なわれたその講座のセッションⅢ「社会」で、八東海BOCVの実践報告を行なってきました。

最初に依頼のあった時には、その「女性学講座」なる名称に、「学」と名づくものにはとんと縁のない私は、とまどいを感じました。その後会館から受諾書やレジメの原稿用紙とともに、発表者のプロフィールという紙が送られてきました。「学歴」「職歴」「現在の役職名」「専門分野」「最近の著書」という項目を見ながら、一つも筆を取ることができず、結局名前を記入しただけで返送してしまいました。

当日配布された資料の中のプロフィールで

は、講師の大学院博士過程修了の学歴や著書がキラ星のごとく並ぶ中、私のものは「二人の子どもをもつ（実際は三人いますが）主婦として」「専業主婦」「生活五年の後へあごら東海Vに加わるうち、女性のひとり立ちを目ざす行動サークル八東海BOCVをつくり現在に至る」という簡単なものでした。このツッパリ方は多少大人げなかったかと思う反面八東海BOCVでとった無記名アンケートの中でも学歴や職歴に記入拒否があったことを考えると、こうしたことでプロフィールを現わすことを、ぜひとも考える必要であるような気がしたのです。

「女性学講座」は、「家庭」「学校」「社会」「文化」の四つのセッションに分かれ、それぞれ三つから四つの研究・実践活動の発表が行なわれました。それが二日目の午後半分で続き、午後の残りに八つの分科会に分かれての討議。最終日はシンポジウムとして、分科会討議報告と会体討論。午後に公開講演会で終わるといのがプログラムです。

各セッションの研究発表では、「東大生の別学・共学出身別の性役割意識の違い」や「雑

誌に取り上げられた女性の特徴」など、内容としては面白いものもありましたが、研究が研究としてあっても、それが性役割を見直し、流動化させていくための理論的な裏づけとなり、また、それがどう女性問題の解決につながるのかという視点や示唆がなければ、どんな意味があるのだろうか、という気がしました。もちろん一方では、それは、発表を聞いた側が受けて立つべき点なのかもしれないとも思うのですが。ちなみに今年の女性学講座のテーマは「性役割の形成・流動化―性役割の形成と教育」というものでした。

約二百五十名の参加者は「女性学」という名前から私が最初に受けた場違いな印象とはうらはらに、主婦も結構多く、研究者や行政の専門家ばかりではないかというのは杞憂に終わりました。

プロフィールもくだんのごとして、発表内容も研究ではなく主婦の実践活動であったことが幸いしてか、発表の後気さくに話しかけてくる参加者も多く、最初は「アノー、伊藤センセー」と言っ、私が「先生なんて呼ばないで下さい。私は生まれてこの方そんな

呼ばれ方したことありませんから」と笑いがら言うと、皆一様にホッとした様子で、「じゃあ伊藤さん」と話しかけてくるのがとても面白く思いました。「よくやられるわねえ、主婦の方だけで」という感嘆もありましたが、「なぜ自分の勉強のためのお金をご主人の稼ぎの中から使うことがうしろめたいのか、わかりませんね」とか、「やっぱりお子さんの小さいうちは外へ働きに行くより、助け合っ

て少しずつやるのがいいわね」という、すこし的是のほずれた感想もあり、話しかけてくれた人とは、なるべくいいねいに話をしました。しかし限られた発表時間(正味二十五分)の中では、発足のいきさつや、やってきた内容を話すのがせいぜいで、△東海BOCVの活動自体の持つ問題点、実際の運営上の問題や矛盾、先行きの点などは伝えられず、どうも主婦の持つ可能性というような格好のよい話になってしまったのではないかと悔んでいます。共感を覚える人には話しかけるけれども、反発を感じた人には話しかけにくいようなもので、△東海BOCVの活動に対して疑問や反発を感じた人とは、ほとんど話ができなかったのが残念でした。分科会で出た「△東海BOCVの、ある種優雅な仕事の仕方は、女

性全体の就労という問題にとって疑問がある」という問いかけに対して、時間や会の運営の点で答える機会が持てなかったことなどに対してはどうかしさが残っています。

また発表内容とは別に、いろいろもめごともあった「日本女性会議などや」が終わった直後だったことでもあり、女性会議のこと、名古屋の婦人運動、女性グループの現状などをあちこちから聞かれ、まるで愛知県や名古屋市を代表しているような具合でした。自分の意見や考え方を織り込みつつ、なおかつバランス感覚を持って事情を伝えることのない勉強となりました。

最近では女性の集会比较的単目的化し、さまざまな意識を持った人が集まって、広範囲の女性問題について学習し交流しあうということに、こしはらく出会っていないかった私にとっては、発表された研究内容とは別に、久しぶりに楽しい集会でした。そう、ちょうど△あごらV全国大会を思い出しました。



フェミニストとは

女を愛する人

女のために働く人

グルーナム・コモンで活動中の

ヒロ・サンプターさんの話を聞く

非暴力、女だけのユニークな反戦活動としてノーベル賞の候補にまでなったグルーナム・コモンの活動については、去年レベッカ・ジョンソンさんから話を聞いて感銘を受けたが、そのキャンプで働いた一人の日本人、ヒロ・サンプターさんが来日した。北海道から九州まで、ヒロさんが精力的に飛び回っておられることは知っていたが、講演会に出席する機会がなく、最終回の「草の根の反核集会」にやっと参加できた。

キャンプ生活のビデオの後、マイクに向かったヒロさんは、銀髪のみじる精かな中年の印象。電車の中で会ったとしても注目せずにはいられないような強い光が全身から発している。

「この一か月に日本で発見したもの。優生保護法、雇用平等法、児童福祉年金、部落、朝

「目指すのは『三角形社会』の崩壊」というヒロさんは、どんな運動でも男がイニシアティブをとる、と、女性だけの運動を強調、既存の社会自体が暴力的なだから、既存の

△あごら山口▽を

名のりはじめました

森川万智子

△あごろ山口Vの発足を念頭に、私たちは二月から毎月第一日曜日に小さな集いを重ねてきましたが、例会は途切れることなく半年が過ぎました。「戸籍」「子供があぶない」の合評、「宗教と私」「雇用平等法」の学習も続けられています。

そして、メンバーの一人である河留美子（ハ・ルミジャ、在日韓国人で脳性マヒ者）さんがどうしても上映しなかった映画「みちことオーサ」の上映実行委員会が五月はじめに組まれたのを機に、下関で八あざら山口V

社会から出ることが大事なのだと主張する。反戦とフェミニズムが見事に一致、//三角形社会//に對置するものとしてのフェミニストを、「女を愛する者」と定義する。

キャンブの女たちに対しては、最初は、レズ集団、離婚者、はみだしっぺの女たち、と、女からも男からもさげすみの目が注がれたと

を対外的に名のりはじめたのです。

固定メンバーは七人です。

「家と夫」に属することを拒否して、あと先も考えず結婚生活を捨て、二人の子どもをかかえてパートタイムで働きはじめた者、二十四歳でバレー色であつたはずの「結婚」にぶつかつてハッと気づき、自分自身で世間の要求する女の姿に自分を型はめようとしてしまつていたことにストップをかけ、必死で本来の自分をとり戻そうと苦闘している二十六歳の者、私（わたし）と国家の問題を戦争体験からずつと考え続けている者、障害者であるという理由だけで学校教育さえ受けられなかった者、在日朝鮮人として生きざることを模索している者、主婦であること、妻であることとをことん見据えようとしている者、そし

いう。しかし聞き伝えて世界各国から女たちが集い、生き生きと活動する中で、女の力のすばらしさが認識され、今では何かコトがあると数万人の女が老若を問わず集まるといふ。

一晩じっくり盃でも傾け合いながら話したい人。日本を發つ前にやっと会えたのが残念だった。

(R)

て運動好きの私、そんな七人です。

「来る者は拒まず、去る者は追わず、自然流
で」例会を続けては来たものの、△あごろ山
口▽を「組織」づくることは結果としてそれ
それを縛りつけることになりはしないか、
△あごろ山口▽が組織運動をはじめたとき、
そのカラーがどこにも属さない人びとに、あ
る種の圧力を感じさせてしまふのではない
か、私たちは恐れています。

けれど現在までのところ、集いの楽しさがその恐れを上まわっているようです。

いわば世間からはみ出している女たちが、朝から晩まで子ども連れで、例会に行ったら話そうと溜めていた事柄を我れ先にしやべりあい、玄米と無農薬野菜の食事を摂り、日頃のはみ出しをカバーするための「無理」を取

り払って本当に楽になれるのが例会なので
す。はみ出している人こそ世の中のことと自
分のことを考え、真剣に生きているのだ、と、
少し自信を取り戻すのもこの例会なのです。

「へあごら山口」が先に存在するのではなく、
「へあごら山口」に属するというのでもなく、私
たちが自分で「へあごら山口」を名づけることなら
どうだろうと提案しました。「今すぐ名づける
のが無理でも、名乗りたくなったら個人で名
のろう。ただし『みちことオーサ』では「へあご
ら山口」として実行委員会に参加しよう」と決
めました。

私個人は、「へあごら」とは、一貫して自分を見
つめながら自分と違う意見にこそ耳を傾け、
心身の底から自発してくる叫びや怒りに促さ
れた運動を続けている人々の集団だと思い、
そのような運動こそ私もやりたい、そのよう
な「へあごら」に連なりたいと思っています。

映画上映は、社会党下関総支部、山口県教
組下関支部、社会福祉ボランティアの会、わ
たぼうしコンサート実行委、下関校区父母の
会との共闘で二百三十人の参加を得て成功し
ました。

実行委員長としての重責を一身に背負っ
て、「地域で生きたい」と訴えた河留美子さん

の足指で書いた「実行委員長あいさつ」の文
章を「へあごら山口」のメッセージとしても、皆
さんに紹介したいと思っています。

*

最初、この映画をやることを迷いました。
でも、私のためと障害者の気持ちをもみんなに
知ってもらいたいのです。

私は、四人姉弟の一番上です。男の兄弟三
人で、上の弟が結婚の前に思いました。私が
いるから家に来る人がいないと思って、どこ
かの施設に入ろうと。

ある施設を、友達に頼んで見に行きました。
そして、他の施設に行つて、友達に聞いてわ
かったことがあります。施設に入ったら、特
に男の兄弟の愛情をますます失うことがわか
りました。

四年前に上の弟が結婚をしました。お姉さ
んと呼んでくれて、なんでも話をしてくれま
す。でも、兄弟、お嫁さんがいくらいいな
でも、私のことを死ぬまで介護することにな
ったら、いや、とそう思います。

今はいいけど、親がいなくなった時に、私
がもっともつとつらくなると思います。親も
時々私の世話をしながらヒスがでて、私の一
番嫌な言葉をいいます。「なんもできなくて、

親がいなくなったらお前はどうするか」と、
お父さんが言います。わかっているのにこう
ゆう言葉を聞くと、よけい不安になります。
私も親に、はぶてたり、けんかをしたり、三
十三年間そうやって生きてきました。そうい
えば、幼い頃父に「親が死ぬ三日前に亡くな
れば、みんなが幸せになる」と、よく言われ
たものです。

こんな体だけど、結婚もして子どもが生ま
たいです。あきらめていても、女として生ま
れてきて、なんのために生まれてきたかわか
りません。

兄弟が苦しまないで、行ったり来たりしな
がら生きてゆけるような介護の体制と友達関
係が欲しいと思います。

みちこさんは、それが実現しています。私
の理想の生活です。
みなさん、映画を見て下さい。

ビデオカセット交換しませんか

女の問題や、シルクロードなどのカセ
ットがあります。同好の方、時々交換し
て見ませんか。βⅢです。あなたのリス
トをお送り下されば、リストお送りしま
す。(連絡先・事務局内ビデオ係)

◆今年には私にとって、久方ぶりに疊りのない幕開けとすら感じられるような新年であった。こんな感慨は、今までに無かった気がしてならない。成り行き上みただった最初の就職の時には無論、負けたと実感しながら到達した結婚の際に、その喜びが決して純でなかったから、あるいは生まれて初めてかもしれないとさえ思う。

約三年前に仕事を辞めて以来、いかにして働くかということは、私の最大の宿題だった。その時以来、せめてバートのアルバイトと思い、細々と続けてきた総勢数名の家庭塾。それを選んだのは、重症の子の看病と併行してできたから。でも、その子が二年前に亡くなってしまってから、私の気持ちも宙に浮いた。昨年夏、きっかけを求めて、高橋ますみさんの塾セミナーに参加。そこで事務的なことから、実際の学習風景まで（何と二日も泊めていただいて）見せていただいたと思ったのは、やっぱり今のままでいたくない、ということだった。九月のある日、にわかにか捜しに飛び出した。狭い畑中の借家から、少しでも人けの多い所に移りたかった。そして四日目に、順調に今の家を見つけ、金策その他でだいぶ時間はかかったが、年末ようやく引越した。

片手間でなく、仕事と呼べるところに近づきたいと、恥ずかしながら正月早々に看板も出して、ゴタゴタ忙しい中にも、心のつかえが取れたような気分を味わうことができた。当面これで行こう、と思っている（当塾の守り神、写真の中の我が子に見守られながら）。

「お金がないと買えない、と思うのは貧者の発想」だと、高橋さんに教えられ、フンギリのつかなかった家まで買うハメになり、何というか、シビれそう。いろいろな意味で刺激を与えてくれた塾セミナー。82号の中野さんに共感／＼私も小さいながら、仲間の一人です。ただ、今後の不安や悩みを考えると名古屋は遠いのが、とても残念。

（千葉県佐倉市 田村美佐子）

◆拠点に参加することで△あごろ△にもっとと行動をして参加できるのでは、と思っていますが、拠点によってもいろいろ個性があり、（それはそれでいいのだけど）、私の近くの拠点に関して言えば、新しく入る人にもっとやわらかくあってほしいと思います。それと時間です。おおかた6時半—8時なので、幼児を持っている人は参加しづらい。たまには土・日にも。会員をふやす意味からも、もっと宣伝し、入口を拡げて。（東京 仲野久美子）

自立する団体として

＝政党・党派の介入とのたたかい＝

一九四六年三月創立以来、世界の平和を——婦人の解放を——民主主義の確立を——と幾多の女たちの力を寄せ合って精力的な活動を続けてきた婦人民主クラブ。

しかし、三十八年におよぶその歴史は決して平坦な道ではありませんでした。外部の政党・党派の介入によって大衆団体としての主体をおびやかされ、自立のための苦渋なたたかきも繰りかえしてきました。

そもそも、大衆団体に拠る市民の運動と政治党派のかかわりはどうあるべきか——。この問題は社会の革新をめざす運動にとって重要な課題だといえましょう。その意味でこのパンフを生きた証言として多くの方に読んでほしいと願っています。

△申込先▽ ●頒価 三〇〇円

婦人民主クラブ
東京都渋谷区神宮前3—31—18
電話 〇三（四〇二）三二四四

海外招待作品

◎台湾◎

監督◎侯 孝賢／曾 壮祥／萬 仁

坊やの人形

坊やの人形 小琪の帽子 りんごの味

兒子的大玩偶 小琪的那頂帽子 蘋果的滋味 (1983)



全斗煥大統領の来日など、韓国については関心も深く情報も多いが、日本に最も近いもう一つの国、台湾については企業進出・買春観光以外ほとんど情報伝わってこない。国交もなく国連からも国として認知されていないこの小さな島国の政治情勢は複雑だが、ここにもまがう方ない隣人が住む。

その台湾の映画の上映を、と働きかけて実現したのが田村志津枝さん。六月の八びあ映画祭Vでの上映が好評で、九月五日から札幌のシネマ、十月十八日から十一月四日までは東京・下北沢の鈴なり老番館で上映されることになった。

台湾の作家、黄春明氏の三つの小品「坊やの人形」「小琪の帽子」「りんごの味」をオムニバス仕立てにした映画「坊やの人形」は、六〇年代前半の庶民の暮らしをえがいている。

日本の雑誌でサンドイッチマンという職業があることを知って、道化姿で映画館の宣伝をする若い父を描いた「坊やの人形」。日本製圧力鍋への幻想、美少女への幻想、共に無残に破れる「小琪の帽子」。父親が米軍の車にひかれたために思いがけずりんごを味わう貧民街の子どもの「りんごの味」と、筋はいずれも淡彩だが、もの言えぬ庶民の悲しみがそこはかとなくにじみ出て、私はつげ義春を思い出した。

敗戦後、朝鮮半島では朝鮮語が国語だが、台湾の国語は北京官話である。これは台湾語でつくられた珍しい映画。学校で国語を習った娘の通訳で警官の話を理解する母の姿に、今の台湾の庶民の悲しみがこめられている。独立を口にするだけで投獄される台湾の現状は、日本ではほとんど知られていないが、土地は変わっても変わらぬ庶民の哀歓は心を打つ。(A)

国会で語られた「禁等法」

衆議院社会労働委員会議録から

その2 (1984年7月10日)

起伏に富んだ第一回の討論を受けたこの日は、野党案提案理由説明に続き、竹村さんから基本的な問題が問われ、前半は「こんなにやく問答」的な応酬が続いた。公・民・共各党の個別的な質問に対しても、きまり文句の応答。一時間ごとの入れ替え制、こま切れ傍聴、しかも立ちづめの傍聴席は、折しもの猛暑にあえいだ、禁等法の性格も政府の姿勢も如実に示されたと思う。熟読して冬の国会に備えたい。

◆野党共同提案「男女雇用平等法」提案理由
多賀谷真稔(社) 社・公・民・社民連を代表し、男女雇用平等法案の提案理由と内容の概要をご説明する。

個人の尊厳と男女の平等は、国連憲章、世界人権宣言にうたわれている人類普遍の原理である。日本国憲法でも、すべて国民は個人として尊重され、法のもとに平等であって、性別によって、政治的・経済的または社会的関係において差別されることがない旨規定している。一九七九年六月日本が批准した国際人権規約でも、あらゆる面で男女平等の権利を保障すべきである旨規定している。また七九年十二月の国連総会では、女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約が採択され、翌年には我が国も署名している。

この条約は、「女性に対する差別は、権利の平等の原則及び人間の尊厳の尊重の原則に違反する」ものであることを想起し、「社会及び家庭における男子の伝統的役割及び女性の役割の変更が、男女間の完全な平等の達成に必要なである」という認識に立つことを、その前文において明らかにしている。その上で第十一条において、「締約国は、男女の平等を基礎として、同一の権利、特に次の権利を確保するため、雇用の分野における女性に対する差別を撤廃するためのすべての適当な措置をとる」とし、「労働権、同一の雇用機会、職業選択の自由、昇進・雇用の保障、役務に係る給付及び条件についての権利、職業訓練及び再訓練を受ける権利、同一価値の労働についての同一報酬及び同一待遇についての権利」等を掲げている。

我が国では、近年、女子雇用者数が増加の一途をたどり、全雇用者の三分の一を占め、日本経済にとって欠くことのできない労働力となりつつあるが、就業の機会や賃金・昇進その他の労働条件にはなお多くの差別の実態が存している。

七五年の国際婦人年世界会議を契機に、欧米諸国では男女平等政策が意欲的に進められ雇用の機会から職場における待遇に至るまで平等を保障する制度が確立されつつある。女性差別撤廃条約の批准や加入を行なった国は既に五十五か国に達している。我が国も八五年に開催予定の「国連婦人の十年」最終年世界会議までにはこの条約を批准することを公約しており、そのための国内法の整備を急いで行なわなければならない義務がある。

以上の内外情勢にかんがみ、われわれ四党

は、女性差別撤廃条約の趣旨を踏まえて、雇用における男女の機会均等と待遇の平等の確保を図るため、使用者等による性別を理由とする差別を禁止するとともに、その差別を迅速かつ適正な手続きにより是正するための有効な措置を講ずる必要があると考え、ここに共同の男女雇用平等法案を提出する次第である。

◆男女雇用平等法案の内容

この法律案の概要をご説明申し上げる。

一、募集・採用・賃金・配置・昇進・定年・退職その他の労働条件、職業紹介、職業訓練等について、性別を理由とする差別を禁止する。

二、性別を理由とする差別に対する監督機関として、婦人少年室に雇用平等監督官を置く。監督官は、啓蒙宣伝・苦情相談などの活動も行なう。また、職務の遂行のため、事業場、公共職業安定所その他の施設に立入検査する権限を有する。

三、婦人少年室長は、差別がある旨の労働者からの申告または職権に基づき調査をし、必要と認める時は、使用者等に対し、その是正のための勧告・命令等を行なうことができる。

る。申請に対し適当な措置をとるかとらない旨の決定を速やかにしなければならない。

四、婦人少年室長の処分に対する不服申し立ての審査機関として、中央雇用平等審査会を置く。都道府県には地方雇用平等審査会を置く。各審査会は労・使・公益の三者構成とし、男女同数とする。

五、不服申し立ては、まず地方雇用平等審査会で行なう。原則として公開し、裁決は公益委員で構成する合議体で行なう。その裁決に不服がある者は中央雇用平等審査会に再審査請求ができる。処分または裁決取り消しの訴えは、中央雇用平等審査会の裁決を経た後でなければ提起できない。

六、何をもち「差別」とするかの判断の基準は、労相が中央雇用平等審査会に諮って定める。

七、罰則は直罰主義をとらず、処分または裁決に従わない場合について設ける。労働者が申告・申請または不服申し立てをしたことを理由に不利益取り扱いをすることを禁止、これに違反した場合も罰則を設ける。

以上が概要である。最後に、この法律を実効あらしめるためには、国及び使用者はその責務を自覚し、労働者もその権利を実現する

ための不断の努力が肝要であることを申し添える。なにとぞ慎重審議の上、速やかに御可決あらんことをお願い申し上げます。

有馬元治委員長(自) 次に委員派遣承認申請についてお諮りする。

ただいま当委員会において審査中の、内閣提出「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保を促進するための労働省関係法律の整備等に関する法律案」及び多賀谷真稔君ほか七名提出「男女雇用平等法案」の両案について、委員を派遣し、審査の参考にしたと思うが御異議はないか。

(「異議なし」と叫ぶ者あり)

委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決しました。

なお、派遣地、派遣日時、派遣委員の人員選案については、委員長に御一任願いたい。

(「異議なし」と叫ぶ者あり)

委員長 御異議なしと認めます。よってさよう決しました。

◆女性差別撤廃条約に至る背景を問う

竹村泰子(社) 六月二十六日、本会議で土井先生、七月三日社労委金子先生の質問で問題となった女性差別撤廃条約と機会均等法案の

関連について詰めてみたいと思う。

人類の歴史は、近世から近代へ移るとき、封建的な支配と抑圧から人間の解放を目指して市民革命が行なわれた。(それは)すべての人間が法の前に平等であることを確認し、すべての人間に基本的人権を保障することであつた。一七七六年のアメリカの独立宣言は、すべての人は平等につくられていると述べ、一七八九年のフランス革命の人権宣言は、人は自由かつ権利において平等な者として出生しかつ生存するとうたつており、我が国の新憲法にもこの精神が生かされている。しかし女性には、わずか三十数年前まで、世界的にも家庭の中に閉じこめられ、全く無権利状態に置かれ、参政権もなく、自分の財産も夫に管理され、相続の権利もなかった。産業革命によって工業化が行なわれ、男は社会に女は家庭にという役割分担がされ、結果、女性男性に依存する寄生的な存在となつた。

一九一九年ILOが創設されてはじめて男女同一賃金、出産前後の就業禁止、深夜業禁止などが打ち出された。この辺の経過は大臣も局長もよくご存じと思うが、それから七十年、日本の女性の地位は労働の現場で、あるいは家庭で、向上していると思われるか。

坂本 最近の女性には社会的にも責任をもつて進出したいという意欲・能力がついてきている。この機会をとらえて男女の機会均等・待遇の平等を果たしたいという今が一つの潮どきであり、女性に対する差別を取り返していくように、今から歴史的な一歩を踏み込みたいと考えている。

竹村 婦人局長、あなたは女であるがゆえに差別されていると感じたことがあつるか。

赤松 私は三十一年間公務員として働いているが、公務員は憲法で保障されている男女平等が直接的に作用する政府の中で働いているので、あからさまな差別を受けることはない。竹村 差別撤廃条約は女性の生き方をどう変えると思うか。

赤松 差別撤廃条約は非常に総合的な条約だと理解している。差別についていろいろな規定が設けられており、多くの国に非常に大きなインパクトを与えるのではないかと思つているが、我が国では戦後、憲法をはじめ、民法・刑法、その他あらゆる分野で法制度上の差別はおおむね解消し、条約の規定に明らかに抵触するような法律や政省令はそう多くはないが、若干問題が残っている場所もあると考えられるので、政府全体として、あるいは

婦人問題企画推進本部の中で決められた国内行動計画等で、何がこの条約に抵触するかをつぶさに検討し、改めるといふ方針である。均等法もその一環として提出した。

竹村 女性の生き方をどう変えるかを質問したのである。たくさん聞きたいことがあるので簡潔にお答え願いたい。

条約の理念と欧米諸国の対応について外務省に尋ねたい。女性差別撤廃宣言は一九六七年、条約は七九年に採択されたが、宣言から条約までの十二年間、どんな変化があつたか。高木 南海雄外務省国際連合局婦人差別撤廃条約批准準備室長 欧州では宣言以降EC指令に基づいて男女平等の措置がとられている。竹村 宣言及び条約の内容についてどんな変化がその間にあつたかをお聞きしたのだが。高木 条約は細かい点を除くと基本的には宣言を踏襲してつくられている。

竹村 もう少しくわしく説明を……。

斉藤邦彦外務大臣官房審議官 宣言と条約の基本理念は同じだが、条約は宣言と異なり法的文書であり、条約という性質に伴い、規定がより詳細になっている。一部の項目には宣言になつたもので含まれているものもあるが、いずれも長文で、いちいち比較して回答

するのは時間がかかるので、具体的に質問してはしい。

竹村 たいへん大きな特徴があるが、おわかりではないか。

斉藤 いくつかの相違点があるので何を指していらっしゃるのかわかりかねる。

竹村 では時間をもったいたないのでお答えする。

宣言は、家事・育児を女性の役割であると前提して男女平等の実現をはかっているが、条約では、家事・育児を両親（と社会）の役割とした上で、母性の尊重と男女の役割分担の変更が平等実現に不可欠としている。

この点については一九八〇年の国連婦人の十年世界会議における条約の署名式の演説で高橋展子首席代表も「法制上その他多くの分野において少なからぬ進歩が達成されたが、現実には伝統的な男女の役割分担意識が社会に根強く残っており、これに基づく社会慣行がある。この意識及び慣行の改変という困難な問題にどのように対処していくかが今後のわが国の主要な課題だ」とはっきり言っておられる。女性差別撤廃条約はその前文で、この条約が必要になった理由をあげている。どんな文章になっているか。

斉藤 女子に対する差別が人間の尊厳の尊重

に違反すること、したがってあらゆる分野で女子が男子と同等の条件で最大限に参加することを必要とすること、家族の福祉及び社会の発展に対する女子の大きな貢献、母性の社会的重要性に留意して社会及び家庭における男女間の完全な平等が必要であること等をうたっている。

◆基本理念のない「均等法」

竹村 これに反し、今回提出された政府案には基本的理念がない。「理念」とはいったい何か。

赤松 ご質問の趣旨がよくのみにこめないので見当はずれになるかと恐れるが、第二条の「基本的理念」は、提案中の法律の基本的な考え方を述べたもので、条約の基本的理念と必ずしも同じではない。

竹村 私は「理念」とは何かとお聞きした。大臣はどうお考えか。

坂本 法律的な細部の解釈はあまり詳しく知らないが、理念と言えば「あるべき姿」と思う。

竹村 あるべき姿。辞書では「理性によって到達する最高の概念」とある。第二条の「基本的理念」は理想の目標か。労働省の理性に

よって到達する最高の概念か。

赤松 最高のというのが当たるか当たらないかはちょっとアレだが、あるべき姿というのは必ずしも現実にある形ではなくて、目指すべき姿というふうに思う。

竹村 条約はこの点、差別をどのようなものと規定しているか。

斉藤 第一条で差別の定義を行なっているが「性に基づく差別、排除または制限であって、政治的・経済的・社会的・文化的・市民的、その他いかなる分野においても、女子が男女の平等を基礎として人権及び基本的自由を認識し、享受しまたは行使することを害しまたは無効にする効果または目的を有するもの」と規定している。ただし第四条で、男女間の事実上の平等を促進することを目的とする暫定的な特別措置と、母性を保護することを目的とする特別措置については、条約上の差別とみなしてはならないと規定している。

竹村 家庭責任や性別役割分担については何と記しているか。

斉藤 五条のaで、「両性のいずれかの劣等性もしくは優越性の観念または男女の定型化された役割に基づく偏見及び慣習上その他のあらゆる慣行の撤廃を実現するため、男女の

社会的及び文化的な行動様式を修正するものと規定してある。

竹村 前文にもある。前文はこの条約のとて
も大事な部分だからすつ飛ばされては困る。

斎藤 前文は条文と異なり実定法上の権利義務を確定するものではないが、ご指摘のおり終わりから二項目に「社会及び家庭における男子の伝統的役割及び婦人の役割の変更が男女間の完全な平等の達成に必要であること
を認識し」という規定がある。

竹村 その少し前もよく読んでほしい。「子どもの養育には男女間の及び社会全体の責任の分担が必要であることを認識し、社会及び家庭における男子の伝統的役割及び婦人の役割の変更が、男女間の完全な平等の達成に必要であることを認識し」とある。

男女雇用平等に関して、ECⅡヨーロッパ共同体は加盟各国に指令を出しているが、その指令で指示されている原則は？

高木 ECではいくつかの指令を出しているが、一九七六年、男女均等待遇についての理事会指令を発している。この指令は、雇用・職業訓練及び昇進の機会並びに労働条件に関して男女均等の原則の履行を課すもので、加盟国は、均等待遇原則に反する法令の廃止、

労働協約、労働契約等に係る規定に含まれる均等原則に反する条項の無効・廃止・改正の宣言、最初にそれらを規定した保護との関係がもはや根拠を失い均等待遇の原則に反する規定の見直し、雇用・職業訓練及び昇進の機会並びに労働条件に関する均等待遇原則が自分に適用されていないと考えるすべての者が法的保護を受けられるようにする等の措置をとらなければならない、と規定している。この指令に基づいてEC諸国では法制整備が進められている。

竹村 先ほどから大事なことを飛ばされるので困る。第二条に「性別、特に婚姻上もしくは家族上の地位に関連した理由に基づくいかなる差別も存在してはならない」とし、その3及び4に「本指令は、男女の機会均等を推進する措置、特に第一条第一項に規定する範囲で女子の機会に影響を与える不平等の存在を除去することにあるものを妨げるものではない」というところがある。

このEC指令から差別撤廃条約へと来るわけだが、条約の批准あるいは加入国数は？
斎藤 八四年五月三十日現在で、批准が五十七か国、加入が六か国、締約国数は計五十七か国である。

竹村 欧米主要諸国中の締約国は？

斎藤 スウェーデン、ポルトガル、ノルウェー、オーストリア、デンマーク、ギリシャ、フランス、スペイン等である。

竹村 イギリスの性差別禁止法（一九七五）の目的・理念・原則と、仏・西独・伊・スウェーデン・米などの理念・目的・原則は？

松原 亘子労働省婦人局婦人政策課長 目的規定があるのはスウェーデンだけである。男女雇用平等法で、「この法律は、労働・労働条件・労働における発展の可能性に関し男女同権を促進することをその目的とする」としているが、それ以外の国では目的規定はない。基本的理念として一条を設けている国もない。

竹村 目的、理念はそうかもしれないが、各国とも、人間の尊厳・男女の平等・女子の労働権は基本的人権であると考え、また宣言していると思う。そして、雇用の入り口である募集・採用・配置から賃金・昇進・訓練・退職・解雇に至るまで女子の差別的取り扱いを禁止している。また国連やILOでも各国でも、人権宣言や憲法で男女平等が掲げられてはいても、実際にはなかなか実現しないため、条約や各国の雇用平等法が必要となったとみているが。

赤松 ご指摘の点についてはいろいろたくさん法律があり、それぞれのつくり方について。たとえば西独では民法改正、フランスでは刑法改正、アメリカでは公民権法第七編という形をとっている。イギリスでは性差別禁止法という独立の法律、カナダでは人権法、ベルギーは経済改革法第五編、デンマークは雇用等に関する男女平等法、オランダは男女均等待遇法というふうになっている国によってさまざまな規定の仕方があるので、細かくどこがどういうふうだということではお答えしにくい、おおむね先生のおっしゃったようなことが言えるかと思う。

竹村 雇用のあらゆる段階での差別的取扱いの禁止、役割分担の変更など、基礎的ないくつかは共通していると思うが。

赤松 いろいろな種類の法律があるので、その中で役割分担の変更を明文で述べているところがすべてに共通するという認識はしていない。

◆ILOと禁等法

竹村 ILOに対する日本の拠出金はいくらで、何番目か。

中村 実外務省国際連合局社会協力課長 一

九八四年で三十二億円強、加盟国中第三位になっている。

竹村 昨年のILO総会で、チェコスロバキアがILO一一号条約に違反しているとして条約勧告適用委員会で問題になった。それに参加された早大の中山和久教授の論文の一部を読んでみる。「八三年のILO総会で、

チェコにおける思想差別を性差別条約違反だとする条約・勧告適用委員会の議論がもめた時に、日本政府代表はチェコ政府を非難する結論を支持した。思想差別も性差別も人道上許せない。だがその日本は、国内で三菱樹脂事件判決によって合憲とされた雇入れにあたっての思想差別を公然と行ない、いま男女平等法の立案にあたっても、性による雇入れ、昇進・昇格差別を罰則によって排除しようとしていない国である。チェコを批判するなら自らの衿を正すべきである。反共十字軍に組みした日本の政府代表のウシロメタさを、私はその光景を見ながらつくづく考えていた」

日本はチェコ非難の結論を支持したのか。

中村 一一号条約は雇用及び職業についての差別待遇に関する条約である。この審議で、社会主義諸国側からはチェコを守ろうという動き、西側からはそれに対していろいろな意

見が出たが、討論の結果、次のような骨子の報告書が本会議で採択に付された。「政治的考慮による解雇が少なくなってきたが、委員会はまだ問題が残っていると考える。本委員会は話し合いの継続を期待するとともに、次回は一一号条約が真に適用されていることを示す詳細な報告を出すことを期待する」。日本政府代表団は、この条約を批准した国は当該条約を遵守すべきだという基本的立場に立って、このレポートに賛成した。

竹村 条約の趣旨を説明してほしい。

佐藤ギン子労働大臣官房国際労働課長 ILO一一号条約は、職業訓練を受けること、雇用されること、個々の職業に従事すること及び雇用条件について、人種・皮膚の色・性・宗教・政治的見解・国民的出身または社会的出身を理由とする差別、除外または優先的待遇を除去するために国家のとるべき方針について明らかにし、こうした方針の遵守などを確保するための法令の制定、また当該方針と両立しない法令や慣行の廃止などについて規定したものである。

竹村 人種・皮膚の色・性・宗教・政治的見解・国民的出身・社会的出身に基づくすべての差別を禁止したこの条約は、一九五八年、

二十六年も前に採択されているが、日本政府はどういう態度をとったか。

佐藤 一九五七、八年のILO総会で討議されたが、日本政府はこの問題の重要性は十分認識して参加した。最終的には妥当な趣旨の条約案が起草されたので、条約案の採択には賛成票を投じている。

竹村 この一一号条約よりはるかに進んだ内容の差別撤廃条約を批准するのだから、当然批准していいはずなのに、なぜ二十六年間も批准しないのか。

佐藤 わが国ではILO条約については、国内法制との整合性を十分検討して、それを確保したうえで批准することになっている。一一号条約はたいへん広範な差別を対象としており、差別撤廃のための法令の制定案についても規定している。国内法制の整備について綿密な検討が必要であり、現在検討中。今後とも鋭意検討したい。

竹村 現在とおっしゃるが、なぜ二十六年間も批准できないのか。日本にチェコを非難する資格があるか。

佐藤 前述のとおり広汎な差別を禁止しており、条約と国内法の整合性について、かなり細かなところまで検討しなければならぬの

で時間がかかっている。

竹村 どこがひっかかっているのか。

佐藤 まだ全部の結論が出ているわけではなく、性差別、皮膚の色による差別その他、まだ十分な対応が出来ていないのではないかといいこともある。広汎なものでもう少し検討の時間がほしい。

竹村 性差別禁止のところが大きくひっかかっていることがわかったが、賛成しているなら批准の責務があると思う。批准するのかしないのか。

佐藤 現在ご審議中の関係法案が成立すれば女子についての部分はほぼ解決すると考えるので、さらに検討のうえできるかぎり早く批准できるようにしたい。

竹村 メドは出てこないようだが、少なくとも検討を約束していただけるか。

中村 引き続き関係省庁にお願いして、批准のできる環境整備を促進したい。

坂本 詳しいことはあまり知らないが、外務省の言うように、努めるべきところは努めて、批准をできるだけ早く努力するのは政府としても当然と思う。

竹村 お約束いただいていいのですね。なぜしつこく言うかというと、一一号条約を批

准すれば、募集・採用から退職まで雇用のすべての段階で差別を禁止しなければならなくなるからだ。一一号条約を根拠にチェコを非難した日本は、当然、自ら一一号条約を尊重するという態度を貫くのが筋だと考えるが。

佐藤 審議して採択する場合、政府としては国際的基準が設定されることは趣旨としていいと賛成の票を投じるが、批准するかどうかは国内法制との整合性を十分に確保してからということになる。アメリカなどは多くの条約に賛成票を投じているが、実際に批准しているのは七つである。

竹村 納得できない。

斉藤 条約を批准すべきかどうかという問題に対する日本政府の態度は労働省からお答えしたとおりである。他方、この条約の締結国「チェコスロバキアがこの条約を完全に実施していない」という事実を他の諸国がどうとらえるかというのは、また別の次元の問題だろうと考える。

竹村 同じことじゃないか。日本は非難しておきながら批准しない。同罪じゃないか。拠出金は第三位、三十二億円、お金は出すが批准はしない、まさにエコノミックアニマルで

はないか。

斉藤 繰り返しになって恐縮だが、条約に加盟した以上、その条約を誠実に実施する義務がある。国内法制上の準備がまだ必ずしも整っていないので批准には至っていないが、ILO全体に対する積極的態度とは必ずしも矛盾しない。

竹村 では外務省は労働省に困るじゃないかと苦情を言ってもいいのでは。

中村 私どもとしては関係各省庁に機会をとらえては未批准各条約について批准できる環境整備を、とお話している。

竹村 差別撤廃条約に署名した時の毅然とした態度で臨んでほしい。

◆差別撤廃条約の訳文に疑問

竹村 ここで一つ確認しておきたいことがある。星山太郎という政治評論家が『諸君』五月号に男女雇用平等法について論文を書いている。政府の審議会の委員とのことだが、大臣はご存じか。

赤松 その論文は熟読した。星山氏が審議会の委員かどうかは知らない。少なくとも労働省の審議会の委員ではないと記憶している。

竹村 星山氏は差別撤廃条約第二条で政府の

国連局の仮訳では「男女平等の原則の実際的な実現を法律その他の適当な手段により確保すること」という個所がある。英語の正文では「法律」の後に「and」が入っている。「法律及びその他の適当な手段」とするべきだと言っているが、フランス語の正文では「and」に当たる部分が「ou」つまり英語の「or」になっていて、「法律あるいはその他の」となり、立法義務はなくなる。そこで外務省ではたいへんお困りになって「法律その他の適当な手段」と、どちらも省いたあいまいな表現になさったと推論しておられる。この表現を選んだ理由は。

斉藤 私どもとしては、法律による措置とその他の措置の両方をとることを求めているものではなく、いずれか一方、いずれにしても差別撤廃につながる措置、実効性のある措置をとることを要求されていると考えている。

英語、フランス語の and と ou の使い方は、かなりあいまいというが区別のはっきりしない点がある。and をフランス語にする場合、ou がいちばん適当ということもある。この条文は、立法上の措置あるいはそれ以外の措置、いずれにしても適当な措置をとれという趣旨をそれぞれの言葉でよりよく表現したも

のだろうと思う。

竹山 星山さんのような方でさえ、政府の仮訳は意味がはっきりしない、と言っておられる。これは仮訳だから誤解のないように、「法律及びその他の」と明快にしてほしい。

斉藤 訳文は、この条約を国会に提出する時点までの間に法制局等の間で十分協議して最終的な形にしたいと思うが、私の承知しているところでは、わが国の法律上、「及びその他の」というふうに重ねて使うということはあまりないように諒解している。「及び」なしに「法律その他の」と書いても、これは「及び」の意味がないということでは必ずしもないと諒解しているので、この場で私が、必ず「及びその他の」という訳文にするという約束をするわけにはいかないが、いずれにしても原文の趣旨を忠実に反映するような日本語をみつめて、そのテキストを国会に提出したいと考えている。

竹村 約束に感謝する。大臣、今後は国際的文書の翻訳にあたって、いま指摘したことのないように配慮していただけるか。

坂本 十分配慮させるよう申しておく。

竹村 外務省は今後、十分よくわかる日本語で訳していただけるか。

斉藤　ご要望にそえるよう努力する。

◆なぜ「平等」を「均等」としたか

竹村　では話題を変えて、雇用平等法と勤労婦人福祉法の改正について尋ねたい。

男女雇用平等問題については、一九七八年十一月二十日に労働基準法研究会の報告が出されている。この報告は男女差別を禁止する範囲をどのように指摘しているか。

松原　募集・採用から定年・退職・解雇までの雇用管理の全ステージにおける差別を禁止する立法を制定すべきだという提言をしている。

竹村　その後一九七九年十二月に発足した男女平等問題専門家会議は、八二年五月に「雇用における男女平等の判断基準の考え方について」という報告書を出し、「雇用における男女の平等」あるいは「機会の均等及び待遇の平等」という言葉を使っているが。

松原　「雇用における男女平等を實現する」ということは、雇用における各種の機会が男女を問わず等しく確保される状況、すなわち、機会の均等を確保し、個々人の意欲と能力に応じた平等待遇を實現すること」であると指摘している。

竹村　立法化の準備にあたった婦人少年問題審議会でも「男女雇用平等法」あるいは「機会の均等及び待遇の平等」という言葉が使われているが。

赤松　「機会の均等」「待遇の平等」という言葉が使われている。

竹村　ところが今度の法律には「平等」という言葉は一つもない。

赤松　これまで「機会の均等」「待遇の平等」をベアのようにして使ってきたが、法案を具体的に作る作業になると、一つの法律の中で同じ意味であれば同じ言葉を使うことが原則だと聞いている。「均等」と「平等」が同じ意味かが一つ問題になると思う。同じとすればどちらをとるかという選択が出てくる。辞書もたくさん調べたが、どの辞書にも明らかに違ふとは書いてなかった。したがって一つの法律の中で「機会の均等」と「待遇の平等」というふうに使い分けることは難しい。これが法律でなければ一向にさしつかえないわけでも、私もずっと習慣にして使ってきたし、今も話の中では使うが、法律用語としては、一つ一つの法律の中では同じ意味であれば一つの言葉を使えということになることは認めなければならぬ。

そこで「均等」ではなく「平等」を使うという方法もあったのではないか、ということになるかと思うが、憲法では「平等」が、労働関係法律では「均等」がおおむね使われており、基準法三条のタイトルは「均等待遇」となっている。今度の法律案は労働関係の法律なので「均等」とした。

竹村　雇用平等法だから労働省の管轄であり労働用語が出てくるのだらうが、これは女子の基本的な人権にもかかわる問題であり、決して労働の分野だけでおさまる問題ではない。逆に「平等」に統一しても構わないのではないか。「男女平等」という言葉こそ国民にもなじみやすく、私たちも使ってきたしマスコミでもそう呼びならわしてきた。それが突如として機会均等法になったが、「平等」という言葉を使っていけないのか。

赤松　法律用語として「平等」は使えないことはない。しかし「均等」は労基法はじめほかの法律にもいろいろ使われている。外国の法律を訳した言葉もイコール・エンプロイメント・オポチュニティというような場合、あるいはEOCなどコミッションの名前など、ほとんど機会均等法とか機会均等委員会とか使われており「均等」が耳なれない言葉とは

思わない。したがって、労働の分野であるという点にかんがみて「均等」を選んだ。

この法律は労働だけの問題ではないと言われたが、あくまで雇用の分野に限った法律であり、労働の外へはみ出るものではないと理解している。条約は総合的な広汎なことを規定しているが、この法律の及ぶ範囲は直接的には雇用であると思っている。

竹村 平等と均等は外国語は同じかもしれないが日本語ではニュアンスがだいぶ違うと思うが、次に移る。

◆勤労婦人福祉法と「禁等法」

現行の勤労婦人福祉法の目的・基本理念は、赤松 目的は、第一条に「この法律は勤労婦人の福祉に関する原理を明らかにするとともに、勤労婦人について、職業指導の充実、職業訓練の奨励、職業生活と育児・家事その他の家庭生活との調和の促進、福祉施設の設置等の措置を推進し、もって勤労婦人の福祉の増進と地位の向上を図ることを目的とする」とある。

基本理念は、第二条に「勤労婦人は、次代になう者の生育について重大な役割を有するとともに、経済及び社会の発展に寄与する者

であることにかんがみ、勤労婦人が職業生活と家庭生活との調和を図り、及び母性を尊重されつつしかも性別により差別されることなくその能力を有効に発揮して充実した職業生活を営むことができるように配慮されるものとする」と、また第三条に「勤労婦人は、勤労に従事する者としての自覚をもち、自らすすんでその能力を開発し、これを職業生活において発揮するように努めなければならない」と規定されている。

竹村 勤労婦人福祉法制定のきっかけは、

赤松 昭和四十七年に制定されたが、当時、日本は非常な経済成長の真っ只中にあり、労働力需要が増大し、婦人の職場進出が著しかった。同時に婦人の社会参加意欲もたいへん高まっていた。婦人雇用労働者は年々増加して、当時約千百万となり、既婚婦人が過半数を占めるに至っていた。ご承知のように日本の婦人労働者は以前は非常に少なく、大体が未婚の若い女性だったが、急激に増加した分は、家庭責任を持つ既婚者が多かった。労働力の構成あるいは婦人労働者の性格が大きく変化を続けていた時代であり、それらの方たちが能力を有効に発揮できるように、あるいは職業と家庭生活との調和が男性に比べてよ

り困難な状態が現実にあるということに着目して、これらの方々が性別によって差別されることなく能力を有効に発揮することができるよう、家庭生活と職業生活との調和を図ることができるようにするための環境の整備が、当時としては労働行政の非常に重要な新たな課題だったと記憶している。

そこで、それまで個別的に講じていた施策を総合的に一つの法律として、基本的な方針もつくり、いろいろな措置を法律の中で位置づけ、あるいは働く婦人の家庭などの根拠規定も設ける適当な時期に來たと判断した。労働基準法、雇用対策法、職業安定法、職業訓練法等、それぞれの中で取り上げられているものを法律の中で総合的に位置づけることも一本の法律をつくることによって可能になると判断して提案、国会で、たしか棄権はあったが反対はなく、成立をみたわけである。

◆変化したILO条約と勧告

竹村 家庭責任をもつ婦人労働者の雇用に関するILO勧告について聞かせてください。

中村 ILO勧告では一九八一年の家族的責任を有する労働者条約——一五六号条約と、男女労働者特に家族の責任を有する労働者の

機会均等及び均等待遇に関する勧告が採択されている。

竹村 一二三号勧告の目的とねらいは。

佐藤 一二三号勧告は一九六五年に採択されたが、その後一九八〇年、八一年に、家庭責任に関係する新しい条約と勧告が採択された時にこれに取って代わられている。

竹村 一二三号勧告の目的を聞いたのだが。

佐藤 この勧告の採択の当時、すでに働く婦人が増加しており、そうした婦人たちが家庭の責任を果たしながら職場での仕事を続けていく中で、婦人が差別されることなく雇用の場でも能力を発揮できるようにという考えからつくられたものだとして理解している。

竹村 その後この勧告について一九七五年に決議を行なっているが、どんな決議か。

中村 「雇用及び職業における婦人及び男子の地位及び機会の均等に関する決議」という名で、国際婦人年終了後でも、雇用及び職業における婦人及び男子の地位及び機会の均等と、婦人及び男子の双方にとってのよりよい労働環境に向けての進歩を達成するためにILOが活動を続ける必要があることを考慮して、いくつかの要請を事務総長及びILO理事会に対して行なっている。

たとえば、加盟国から提出される家庭責任を持つ婦人の雇用に関する勧告に関する報告に基づき新しい文書を探択することを目的として、家庭責任を持つ労働者の問題を、ILO総会のなるべく早い会期の議題にすることというのがあり、これに基づいて八〇年、八一年に審議したのが前述の勧告と条約に結びついていった。

竹村 この決議に日本の各代表はどのような態度で臨んだのか。

中村 日本政府代表団は採択に賛成している。

竹村 ILOがその後採択した新しい勧告の内容は。

中村 この勧告は、一九八一年の家族的责任を有する労働者条約・一五六号条約を補足するために採択されたもので、この条約に規定する細目的な事項、たとえば「国の政策」とか「訓練及び雇用」「保育及び家族に係るサービス及び施設」等を規定している。

竹村 一五六号条約、一六五号勧告は、それぞれどんな目的を持っているか。この条約及び勧告を採択するのにあたり、日本の各代表はどういう態度をとったか。

佐藤 家庭責任が男女双方にあるということ前提にして、家庭責任を持つ労働者が雇用

の場で十分機会均等を確保できるようにすることを目的にしている。条約は基本的な規定が定めてあるだけだが、勧告は職業訓練とか労働条件、社会的サービスその他について細かく規定している。採択には日本政府は賛成した。

竹村 そうすると、一二三号勧告は実質上廃棄されて、男女ともに家庭責任があり、労働者は、男性も女性も、家庭責任を果たすことと働くことを両立させなければならぬ、そのための条件づくりを国は積極的に講じなければならぬ、ということになった。日本政府はそれに積極的に賛成したのだから、まさに積極的にそのための措置を講ずる責務があるわけですね。

佐藤 条約の採択に賛成するかどうかは、その条約の趣旨が国際基準として妥当であるかどうかという観点から考え、妥当であれば賛成するが、批准については、国内事情その他も十分勘案し、国内法制との整合性を確保した上で批准することになるので、現在その観点からの検討を行なっている。

竹村 またしても賛成はするが批准はしないのですね。一五六号条約を批准した国は現在何か国ぐらいか。北欧・EC諸国、アメリカ

などで批准した国があったら名前を敢えてほしい。

中村 一五六号条約はノルウェー、スウェーデン、フィンランドの三か国が批准している。一六五号勸告は勸告なので批准という問題は生じない。

竹村 ILOで労働者の家庭責任問題の考え方に変化があったのに対応して、国連でも同様の变化があった。一九六七年の女性差別撤廃宣言はどううたっているか。

高木 「社会的・政治的・経済的・文化的生活に対したされた婦人の偉大な貢献、及び家族、とくに子の養育における婦人の役割に留意し」と書いてある。

◆思わずもれた男のホンネ

竹村 (それに対し) 一九七九年の女性差別撤廃条約は、先ほど確かめたように、家庭責任を男女と社会の共同責任とし、社会と家庭における男女の役割分担を変更することが必要だと強調している。

国連は人権規約を定めていたがそれだけでは不十分として差別撤廃条約を採択した。働きながら家庭を持つことはたいへん重大な問題で、社会と家庭における性別役割分業の変

更は、雇用平等を実現するための欠かせない条件であることが明らかにされている。そのためには伝統的な考え方を改めなければならぬが、伝統的であるだけに非常に強力で根強い。

六月二十六日の衆議院本会議で土井たか子先生が代表質問を行ない、総理に女性観をたじたが、中曽根総理は、女性は夫の半分を支えているとしつつも、よき妻、よき母であってほしいと答弁した。これは質問の趣旨からはずれたもので、よき社会人であってほしいと考えていないのか、あるいは総理の本音はからずも出てしまったのか、これは女性の社会参加を全く認めず、よき妻でよき母でなければよき女性ではない、という発言にとれる。不見識きわまりないと思うが、土井先生が改めて取り上げると思うので労働大臣の女性観を聞きたい。

坂本 よき妻、よき母であってほしい、それは同感。もう一つつけ加えなければならぬのは、女性もその自覚と努力においてよき社会人になり得る、また、そういう方向に誘導しなければならぬと思う。

竹村 何かよくわからない。先週の愛知委員の質問に対し、「昔と違って女子もよく勉強

するようになり、この女性の能力を活用することによって人的な社会財産とする、これまでに男性主導社会だったが、女性をうまく誘導することによって力を発揮して頂く」といった意味のことを言われた。このとおりか。

坂本 確かに明治以来の日本の社会は男性主導型であったことは事実である。男性の能力の開発、社会的な活力を誘導したことは日本は非常に成功した国のほうだと思う。その一面、昔からの伝統的な男女の役割が非常に厳しく行なわれて、職場における女性差別もやはりあったのは事実である。その女性がいまやる気を出している。昔からみれば勉強もしておる。こんな結構なことではない。考えてみれば、男性の社会開発、社会能力は今まで育ってきたけれども、これから女性に重点を入れることによって、女性自身の社会的な、特に雇用などにおける能力を伸ばし、女性のために役立つことはもちろんだが、わが国の社会においても女性の力が入ってくるということは、今後将来において大変な活力になり得るものだ、という趣旨のことを申し上げた。

竹村 後半の部分は結構だが、これまで女性が能力を十分に発揮できなかったのは、誰がその能力を抑えつけ、教育をせず、そういう

位置に追い込んだのか。こういうことは大臣の頭の中には全くないのではないか。女性を一段低く見て、劣った性、第二の性を見て、男性が誘導していかなければ能力を引き出せないという男性の優位がありありと見える。

女性の労働権は基本的人権なのであって、能力を引き出される、しかも男性によって誘導されるものではない（傍聴席「そうだ」の声多し）。何の抵抗もなくそう思っているが、言葉の裏に見えたのでお聞きしたのだが、差別をしている人にはわからないことがよくあるのですね（「そうだ、そうだ」の声）。劣っている女性を援助してやろうという福祉の考え方が、勤労婦人福祉法を変えるという問題の中心になっているような気がする。私はしてならない。本来は同じ価値を持ち、同じ能力を持っているはずの同じ人間のはずだが、大臣や赤松局長の答弁にそれがぼつぼつと表われてくるのでたいへん残念に思う。

◆行政指導の国ニッポンだ

竹村 ILO一五六号条約及び一六五号勧告によって、政府は一二三号勧告に基づく現行の勤労婦人福祉法を改廃し、一五六号条約を批准するための国内法の整備を行なう義務を

負っているわけだが、どんな国内法の整備が必要だとお考えか。また、そのためどんな努力をなさっておられるか。

赤松 一五六号条約、一六五号勧告については日本政府としてはまだ批准するという申し合わせもない。この条約、勧告は何分たっせん新しい。先ほど一一一号が二十六年もたっているというご指摘があったが、それに比べると出来立てと言ってもいいような条約なので、どういふことをすれば批准できるかという検討もまだ緒についたと言える程度のものであり、これをどうすれば批准できるかということについては現在の段階ではお答えできないような結論は得られていない。

竹村 具体的な案は何もないのか。

佐藤 私どもでもいま国内法制との整合性を確保するという観点からいろいろ検討しているが、いくつか問題がある。たとえば「家族的责任のみをもって雇用の終了の妥当な理由としてはならない」など、このほか、いくつか国内法との関連で検討しなければ問題になると考えられるところがあり、現在そういう点について検討しているところである。

竹村 事態があまり進展していない理由、原因についてはどうお考えになるか。今後はど

う対処されるおつもりか。

佐藤 国内法との関係でどういうところが抵触するかという検討をしており、それがすでに必要な措置がとれば、ということになるが基本的なところでいろいろ難しい問題もあり、さらに検討していきたい。

竹村 大臣、行政指導もしていられるか。坂本 いろいろ検討し努力する。

竹村 誠意が全く感じられない。やる気があるのか。日本は行政指導の国ということで諸外国でも有名。特に通産省は財界と一緒に通商産業問題に取り組んでおられるが、労働省はこれまで目標を設定し、目標どおり実現した政策課題があるか。

加藤孝労働省職業安定局長 現在高齢化社会に向けて六十歳定年の一般化の目標を掲げ、行政指導を懸命に展開し、六十歳定年制が過半数を超える状態になっている。

竹村 この目標はいつ設定され、実現するのはいつか。

加藤 昭和五十四年の第四次雇用対策基本計画で目標を設定、六十年に六十歳定年の一般化を実現できるだろうと考えている。

竹村 「一般化」のメドは。

加藤 審議会でもいろいろ議論があり、使用

者側委員は五〇%、労働側委員は九〇%以上を主張した結果、とにかく一般的に定年六十歳制になっておる状態を実現しようというコンセンサスを得た。

竹村 労働時間も年間二千時間以内という目標を立てられたが、いつ設定され、実現するのはいつか。目標設定時と現在の労働時間は。望月三郎労働省労働基準局長 五十五年にスタートし、六十年に二千時間を目標にしている。非常に厳しい経済社会状況で二千時間達成は非常に難しい。週休二日制も労働時間短縮の行政指導の手法の一つだが、現在七五%、四人に三人は何らかの形の週休二日制の恩典に浴している。

竹村 欧米諸国の年間千六百―八百時間に対し、日本の二千時間は実にささやかな目標だと思う。経済大国、ぜひご努力頂きたい。

育児休業制の努力目標は。

松原 昭和四十七年に制定された勤労婦人福祉法で事業主の努力義務を規定、行政指導しているが、何年度までに何の普及という具体的な目標は掲げていない。

竹村 現在の実施企業数と十年前の数字は。松原 労働省の女子保護実施状況調査によると、昭和四十六年の普及率は二・三%だった

が、四十九年五・七%、五十三年六・六%と向上、五十六年には一四・三%になった。三十人以上の常用労働者を雇用する事業所を対象とした調査である。

竹村 その制度の下で働いている労働者数は。松原 労働者数については具体的な統計調査をやっていない。推計をしなければならぬので別途ご連絡申し上げる。

竹村 現行勤労婦人福祉法は、育児について国や事業主の責務を定めている。どんな条文か。

赤松 十一條に「育児に関する便宜の供与」として、「事業主は、その雇用する勤労婦人について、必要に応じ、育児休業の実施その他の育児に関する便宜の供与を行なうように努めなければならない」とし、育児休業のという言葉が、この法律で初めて使われたことにもかんがみ、(事業主が、乳児又は幼児を有する勤労婦人の申出により、その勤労婦人が育児のため一定期間休業することを認める措置をいう)とカッコづきで定義している。

努力義務の主体は事業主である。

竹村 法律で国や事業主の責務を定め、国が努力されたにもかかわらず育児は普及していない。事業主の努力義務と政府の行政指導だ

けでは実現しない、あるいは政府は努力を怠っていたのか。

赤松 育児については、制度が発足してすぐ二次にわたって研究会を持った。実態調査もたびたびしているが、問題点としては、休業中の代替要員の確保をあげる企業が六割で最も多い。特に、教育・医療業のように専門的・技術的労働力を必要とする業種ではその割合が高くなっている。次に多いのが休業中の社会保険料の負担や休業者が復職した場合の代替要員の処遇で、各二、三割である。大企業ならある程度できるが、小企業や女子労働者が少ないところでは、これらが阻害要因になっていると考えられる。

竹村 事情は種々あるだろうが努力義務だけでは実現しない。今回の政府案も努力義務が非常に多い。所期の目標や目的を実現するためには制度を法律上確立する必要があると思うがいかがか。

坂本 もっと努力をしなければならぬとは思ふ。局長が言ったような問題もあるし、二度にわたるオイルショックで手が回りかねたという点もあるかもしれぬが、これから行政指導を強めたい。これからのほうが成果が上がり得ると思う。

竹村 育児休業法制定の努力を約束してほしい。

赤松 決して等閑に付していたわけではなく、行政指導で普及に努めるとともに婦少審で長い間ご討論いただいたが、結果として、請求権として法制化するのとは時期尚早というのが多数意見だった。当分、行政指導その他による普及を強化する。現行の法律では努力義務だが、国が必要な指導・援助を行なうことを新たに法律案に加えた。

◆言葉のすり変えに終わった福祉法改正

竹村 ILO一五六号条約を批准するには国内法のどこが抵触するのか。

松原 条約では労働条件等において、男女を問わず家族的責任を有する労働者のニーズを考慮した措置をとることを要請している。具体的内容は加盟国にゆだねられているが、いったんその措置をとると決めたからには、男女を問わずすべての労働者に適用することが求められる。わが国の育児に関する法律では勤労婦人福祉法のほか、公務員の看護婦・保母・教師等に適用される育児法があるが、対象を女子に限定している。条約との関連でどう考えられるかというのが第一点である。

二点目は、第八条で「家族的責任のみをもって雇用の終了の妥当な理由としてはならない」と規定しているが、わが国の法制でそれを満たしているかどうか検討を要する。

竹村 一五六号条約を批准できるよう、国内法の整備その他早急にやって頂きたい。

赤松 今後検討したい。

竹村 現行勤労婦人福祉法の目的は政府案ではどう改められるのか。

赤松 「この法律は、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇が確保されることを促進するとともに、女子労働者について、職業能力の開発及び向上、再就職の援助並びに職業生活と家庭生活との調和を図る等の措置を推進し、もって女子労働者の福祉の増進と地位の向上を図ることを目的とする」に変更になる予定。

竹村 すると、結局、女子労働者の福祉の増進と地位の向上を図ることが目的であることは変わらないわけでおかしい。現行勤労婦人福祉法の基本理念はどう改められるのか。

赤松 最終の「もって」以下は、「勤労婦人」が「女子労働者」に改められるだけなので、ご指摘のように「福祉の増進と地位の向上を図ることを目的とする」は同じである。

基本的理念は第二条に掲げているが、「女子労働者は経済及び社会の発展に寄与する者であり、かつ、家庭の一員として次代を担う者の生育について重要な役割を有する者であることにかんがみ、女子労働者が母性を尊重されつつしかも性別により差別されることなくその能力を有効に發揮して充実した職業生活を営み、及び職業生活と家庭生活との調和を図ることができるよう配慮されるものとする」に変わる予定である。

竹村 「重大」が「重要」に改められる。字句上の修正や入れかえはあっても、基本理念は変わらない。現行法の基本理念の柱の一つは、女子労働者は現代を担う者の生育について重要な使命を有するので、女子労働者が職業生活と家庭生活との調和を図ることができるようになるということである。この点が差別撤廃条約やILO一五六号条約で否定されているのに目的も基本理念も変わらない。これが差別撤廃条約批准のために政府がご提案になった新しい法律というのはおかしい。

赤松 現行法は、最初に「次代を担う者の生育について重大な役割を有するとともに、経済及び社会の発展に寄与する者であることにかんがみ」とあったのを、改正案第二条で

は、まず最初にあった「次代を担う者の生育」を、「経済及び社会の発展に寄与する者であり、かつ家庭の一員として次代を担う者の生育について……」とした。「家族の一員として」をわざわざ書いたのは、次代を担う者の生育については、母親だけでなく父親、女子労働者だけでなく男子労働者も、共にその責任を担う者であることを明らかにしたいという意見をもって改正を提案した。「重大な」を「重要な」に書き変えたのもニュアンスの違いを出したいと考えたわけである。

福祉法では「勤労婦人が社会生活と家庭生活との調和を図る」をまず掲げているが、順番を変えることによって強さをやわらげようと修文した。

このように基本的理念は、順番を変える、あるいは文言を修正するということによって女子労働者のみが家庭責任を負っているという印象を与えない、この法律がそういうふうに通っているのではないことができるだけ表に出るように修文したわけである。

竹村 「父親も」というのはどこで判断できるのか。

赤松 「次代を担う者の生育について重大な役割を有する」という表現と「家庭の一員と

して次代を担う者の生育について重要な役割を有する者である」という表現の違いは明らかにあると思う。

竹村 難しい読みをしなければならぬ。父母共に家庭の仕事を分業するということを条文で読みとらなければならぬのか。

赤松 「家庭の一員として」ということは、ほかにも家庭の責任を担う者がいるというふうにお考えいただきたい。

竹村 「家庭の一員として……役割を有する」は女子労働者のこと。どこに父親が出てくるのか。

赤松 「女子労働者は」という主語がそこにかかるのは当然だが、「家庭の一員として」というのは、一人だけではなく複数いることを前提として、その中の一人であるワン・オブ・ゼムだという趣旨である。

竹村 福祉法は、女子労働者が「経済及び社会の発展に寄与する者である」ことを法律制定の理由とし、これは均等法にも受け継がれている。少しも新しくない。さらに女子労働者が充実した職業生活を営むこと、しかも職業生活と家庭生活との調和を図ることができ、そのために「配慮されるものとする」と規定されている。これもそのまま移され、

少しも新しくない。

赤松 先ほだのご質問で、男子労働者の父親という表現がないということだったが、この法律はもともと女子労働者についての法律だから、女子労働者が主語である。「家庭の一員として」を加えたのは相当隔たりのある表現だと思う。言葉の使い方はご指摘のとおりだが、順序を入れかえることによって重要性のウエイトが違うと考えている。

「経済及び社会の発展に寄与する者である」ということは、八年前の福祉法の当時と今と変わるわけではないので、その表現はそのまま承継している。「母性を尊重されつつしかも性別により差別されることなく」という現行法の基本理念もそのまま生きると思う。

竹村 「家庭の一員として」で父親の存在をほうふつと想像しなければならぬのか。

赤松 ほうふつよりはもう少しはっきりと浮かび上がるのではないかと思う。

竹村 これは法律なんです。法律でいい加減なあいまいなことを——もし父親の姿をこころではっきりと想像しなければならぬのなら、なぜ父親も、とお書きにならないのか。

(傍聴席「そうだ!」の声)

赤松 先ほども言ったが、これは勤労婦人福

社法であり、女子労働者について男子労働者

との均等な機会を、というふうに、女子労働者の側に立った表現をすべてにおいてしている。したがって「女子労働者は家庭の一員として」と言えば、家族のほかの構成員とともに

という意味であることは明らかだと思ふ。竹村 父親のいない家庭もある……。しかしこれをあまり深追いしていると時間がもった

いないのでやめるが、男女が協力して家庭の仕事を分担すると思ひなら、なぜそうお書きにならないのか、たいへんふしぎに思ふ。

(傍聴席「そうだ」「ふしぎだ」の声)。

しかも「目的」のところで「福祉の増進と地位の向上を図ること」とし、「基本的理念」のところでは「配慮されるものとする」ということになっている。誰が配慮するのか主語が明らかになっていない(傍聴席「そうだ」の声)。この点も現行法と新しい案とは全く同じである。

第四条「関係者の責務」で主語が出てくるが、現行法はどうなっているか。また新しい法律案はどうか。

赤松 「配慮されるものとする」の配慮する主体は、四条の、事業主、国及び地方公共団体であり、いちいち羅列する煩を避けて受動

態で書いた。

「関係者の責務」の現行法は、第四条として「一、事業主はその雇用する勤労婦人の福祉を増進するよう努めなければならない。二、国及び地方公共団体は、勤労婦人の福祉を増進するよう努めなければならない。三、事業主がその雇用する勤労婦人の福祉の増進のための措置を構じ、又は国若しくは地方公共団体が勤労婦人の福祉の増進のための施策を構ずるにあたっては、事業主又は国若しくは地方公共団体は、その措置又は施策を通じて前二条に規定する基本的理念が具現されるように配慮しなければならない」となっている。

これに対し提案中の法律は、やはり第四条だが、「事業主並びに国及び地方公共団体は、前二条に規定する基本的理念が具現されるように配慮して、女子労働者の福祉を増進するように努めなければならない」となる予定である。

竹村 すると、これも少しも新しくなっていない。

赤松 ここは整理をしたが、基本的な考え方は実質的に変更していない。

◆女子労働者に課された義務は

竹村 現行法も均等法も女子労働者に対して義務を課しているが、それぞれどういう内容になっているか。

赤松 新しいほうは第三条で「女子労働者は労働に従事する者としての自覚の下に、自ら進んでその能力の開発及び向上を図り、これを職業生活において発揮するように努めなければならない」という努力義務を記している。古いほうは「勤労婦人は、勤労に従事する者としての自覚を持ち、みずからすすんで、その能力を開発し、これを職業生活において発揮するように努めなければならない」となっている。

竹村 なぜ女子だけが努力し自覚しなければならないかないへん問題だが、それは後に回す。この法律の最も基本的な、最も大事な柱で何の変化もない。朝からしつこく差別撤廃条約やILO条約の基本が、男女共に人間の尊厳について尊重されなければならない、労働権も基本的人權の一つとして保障されなければならない。家庭責任は男女及び社会の共同責任で伝統的な役割分業ははつきり変更されねばならないことをうたっていることを明らかにした。国際人權規約、世界人權宣言なども、人間の尊厳や基本的人權は尊重されねば

ならないこと、男女の差別は否定されねばならないことなどをうたっているにもかかわらず、雇用における男女平等や女子の労働権などが実現していないため特別の立法措置が必要だと差別撤廃条約で言っているわけですね。

赤松 「自覚をもち」を「自覚の下に」と改めたのは、福祉法制定当時は勤労婦人の一部に職業人としての自覚の不足を指摘する議論がたいへん多かったので「自覚をもち」と表現したが、制定後十年、女子の就業意識はたいへん向上したので、社会の変化に対応した文言の修正をした。

女子についての自覚を求めるのはおかしいというが、これは女子についての法律なので男子の自覚を書く必要はない。世の中が変わったと言っても女子労働者が自覚をもって自ら職業能力を開発する必要性は審議会においてもだれ一人反対はなかったと記憶している。

第二点については第二章に事業主のとるべき措置として全く新たな条文を起こした。この部分が男女の均等の機会と待遇を進めるための最も重要な部分であろうと思っている。坂本 女子の自覚と能力の開発が進み、現に社会的にもずいぶん活躍するようになったが

まだまだ長い間の慣習があり差別が残っている。そこで女子の皆さんにしっかり頑張って頂くと同時に今までの障害を取り除いてあげよう、——国民の名においてです、男が女性に対して恩恵を施すためにやるのじゃない。国民の名においてそういう期待を申し上げておる。それだから法律をつくりたい。

竹村 大臣はたいへんやさしく親切な方だからと思うが、差別を取り除いてあげたいとか向上して頂きたいとか、やはり男性優位の考え方で、そこをよくわかって頂きたい。

◆目的・理念を明らかにしてほしい

竹村 差別撤廃条約第二条、特に(b)項(c)項はどうなっているか。

斉藤 前書きに「締約国は婦人に対するあらゆる形態の差別を非難し、すべての適当な方法により、かつ遅滞なく婦人に対する差別を撤廃する政策を追求することに合意し及びこのため次のことを約束する」となっている。

(b)項は「婦人に対するすべての差別を禁止する適当な立法その他の措置(適当な場合には制裁を含む)」をとること、(c)項は「婦人の権利の法的な保護を男子との平等を基礎として確立し、かつ、権限のある国内裁判所その

他の公的機関を通じ、いかなる差別行為からも婦人を効果的に保護することを確得すること」となっている。

竹村 そうすると、条約の要請にこたえて雇用における男女平等を確保する法律は、その目的や理念において男女の平等を確認し、あらゆる男女差別の禁止を訴える、その実効性を確保するために公的機関を設けることを明らかにするのが筋ではないか。

斉藤 この条約は差別撤廃という目的実現のための具体的措置については各国が自主的な判断に基づいて実効ある措置をとるようゆだねていると考えられる。どのような具体的措置をとるかにはわが国の労働政策上の問題になる。ご指摘のような具体的な点までこの条約が求めているとは考えていない。

竹村 労働大臣もそうお考えか。

赤松 外務省のお考えと全く同じである(傍聴席「大臣に聞いてるんだぞ、大臣答えろ」の声)。

竹村 目的や理念が確立していない、あるいはわかっていない、あいまいだったり筋違いだから、具体的な規定が条約の趣旨に沿わなくなるのだと思う。目的や理念は大事な点なので、ぜひはっきりさせてほしい。私たちは

四会派共同の男女雇用平等法を提出したが、目的と基本理念を（条約の精神どおり）明らかにしている（と骨子を読みあげる）。

質問をそろそろ終わらせて頂くが、女性が第二の性、劣った性、弱き性として、差別・抑圧を受けてきた歴史的事実を考えるなら、国連が男女平等を人間の尊厳として宣言し、たゆまぬ努力を続けているのは画期的な

TOPICS

★禁等法は継続審議に

八月八日、第百一回特別国会は終了、禁等法は参議院でもかくも継続審議になりました。予定どおりなら、十二月六日から社会労働委員会で審議が始まります。

七月二十四日の衆議院社労委は、いつもながら与党席は三、四名。決議直前なれこんだ与党議員により、二十対十九で政府案を可決。傍聴席から思わずヒョーノインチキノの声があがり、数名が監視に連れ出されました。日本の現状を物語る瞬間でした。

同じ時刻、八女も男も連帯委員会V主権の恨めしや幽霊デモは、三百人が檜町公園に集合、白装束で永田町かいわいを徘徊して国会に請願しました。

ことだと思う。男女平等とは何か、それを達成するための戦略は何かについては、女性の間でさえ意見が異なるかもしれない。しかし平等を望まない女性はいない。国や社会や男性が男女平等達成のために何をしなければならぬかがいま問われている。私たちは共同対策を出したが、どうぞ十分ご熟読下され、大臣、読まれましたか。（坂本大臣）いま聞

★教員免許法改正は廃案に

教師の差別的階層化と騒がれた教員免許法改正は、臨教審、健保成立の見返りに廃案に。

★年金法改正は年内？

独身者と共働き家庭に重い負担になるため問題になっている「年金法」の「改正」は、衆議院で継続審議になりましたが、次期通常国会で年内に成立させると、政府と自民党は八月二十日、所信を表明しました。「改正」にはコンピュータ処理システムの切り替えなどが必要、その準備に一年半近くかかる、遅れると財政に響く、というのがその理由ですが、コンピュータ・システムの変更にさへ一年半もかかる大改革を、ほとんど審議もせず年内強行突破していいものか……。均等法は

きました」と叫ぶ。傍聴席「読め！」（の声）。いまお読みしたのは、一部分。十分ご熟読、ご検討のうえ、ぜひともご賛同頂けるよう、希望を切に申し上げて質問を終る（拍手）。（続いて行なわれた橋本文彦（公明）大橋敏雄（公明）小淵正義（民社）箕輪幸代（共産）各氏の質疑も問題点を鋭く衝きましたが、紙幅の関係で、次号に掲載します）

とともに働く女の側からの運動が必要ではないでしょうか。

★一日九時間、週四十五時間に

労基法研中間報告

「女を男なみに」の「均等法」の出現で「世界的水準なみ」の労基法改正が望まれている折、労基法研の報告はショック！ 労使双方の顔を立てた案だそうですが、禁等法、ますます男女共闘が必要なよう……。

★臨教審スタート、女性はずか三人

自薦他薦数百人にのぼったという注目の臨教審。首相が強調した「女性の積極登用」に登場したのは木村治美、曾野綾子、溜沼代の三人だけ。九月五日の第一回会合で早くも教育基本法見直しの声も。このメンバーで大丈

夫なんでしょうかねえ。

★パート減税、内職主婦は据え置かれたまま
いわゆる「パートの壁」は九十万円に。世帯主の配偶者控除による減税等を含め減税額は百億円。しかし、内職・自営業は課税最低限額が四十七万円のまま。資本主義経済を支える中堅サラリトマンの主婦を「パート程度働かせる」政策は、ますます定着。

★企業は大歓迎「女子パート」

平均像「三九・一歳、勤続年数三・五年、週五日、一日五時間働き、時給五百六十一円、産休・生休・有休・退職金のすべてに格差があり、高卒初任給より二万三千円安。現在より「ふやしたい」企業は40・2%。二千社を対象とした産業労働調査所の調査で。

★8・15マラソン演説会に警官が干渉

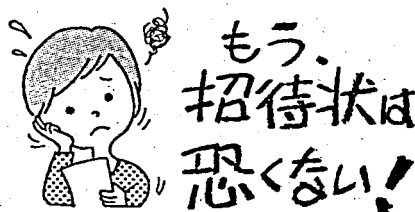
酷暑の中、戸川昌子、コシノ・ジュンコさんなどの新顔もまじえ、例年以上の発言者が相ついだ恒例の渋谷駅前マラソン演説会、右翼に代わってことしは警官が「演説をやめろ」と再三の警告。「近所の迷惑になる」と。戦争になったら日本じゅう大迷惑ですよネ。

★鉄連裁判、判事三人の合議制に

「禁等法」の折から重要性が認識されたのか、鉄連裁判は三人の合議制に。被告側は、菊橋

さんが「アルバイトでもできる簡単な集計作業をやっていた」と、男女で職務内容が違うことを必死に説明。性差別があった印象をかって深めました。次回公判は九月十三日午後一時から。四時半から「新日鉄包囲デモ」を。★矯風会かけこみセンター設立募金開始
二十五年間の歴史の重みで「かけこみルーム」も老朽化、再来年の創立百年記念に「かけこみセンター」をと、総額五千万円の募金を呼びかけ中。振込先、東京01142675

★亭主の在宅勤務、62・9%がイヤよ
ニューメディア時代でも、「亭主は丈夫でるがよい」——特に四十代は七割が拒否。新婚の二十代も四割はイヤ。夫がウルサイのか？主婦の天国を知られるのがいやなのか？★フランス通産大臣にクレソソソ女史
ファビウス内閣は閣僚の中でも重要な通産相に女性を登用。アメリカではフェラーロ候補に共和党員でも女性をひそかに投票する運動がスタート。



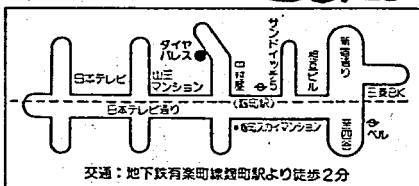
- 友人の結婚式！●仲間とのパーティ！●20日からの彼とのデート！●etc.

——新しい洋服は着ていきたい。でもお金はかかるし……友達に借りるのは気がひけるし……

★そんな時!! <ブーケ>がステキな洋服をお貸しします。★有名ブランド品を数多く取そろえてあります。★考える前に電話を!

lending dress spot

Buke



交通：地下鉄有楽町線麹町駅より徒歩2分

〒102 千代田区二番町11-9 ダイワハウス410号
phone 237-1378

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会場・連絡先
9月9日(日)	11:00-16:00	あこら京都・例会	年間テーマ「管理教育の問題」	阿部宅 07553133089
12日(水)	14:00-16:00	あこら京王・例会	「管理教育の問題」	福井宅 03330087871
13日(木)	13:00-15:00	鉄道の七人と共に性による仕事差別、賃金差別と闘う会・公判		東京地裁民事19部 7F
14日(金)	10:30-12:00	あこら札幌・例会		喫茶「のあ」0115111377
15日(土)	13:30-16:00	あこら佐世保・例会		佐世保市立図書館会議室
16日(日)	11:30-15:00	あこら旭川・例会		小坂宅 01166442927
18日(火)	18:00-18:30	あこら九州・例会		福岡市立図書館
19日(水)	18:30-19:00	あこら大阪・例会		藤井宅 063876574
20日(木)	18:00-18:30	「均等法」この夏の国会審議総点検 講師 中島通子・吉武輝子		平等法をつくる会 03335799565
21日(金)	18:00-18:30	教科書訴訟を支援する新宿地区連絡会 第1回発足準備会		労働総合センター 11F(飯田橋駅前)
22日(土)	19:00-21:00	スリ・チンモイコンサート 無料・予約制 連絡先036467341		杉並公会堂
23日(日)	18:30-19:00	全国婦人団体研究集会「国連婦人の十年と婦人団体の役割」		国立婦人教育会館0493626711
24日(月)	18:00-18:30	「夫婦の財産関係」講師①富士谷あつ子 ②河合徹子		京都社会福祉会館0758016301
25日(火)	18:00-18:30	「宮沢賢治への旅・三年目のつどい」		新宿区福祉会館 3F牛込公会堂
26日(水)	18:00-18:30	あこら武蔵野・例会		かわら版事務所 04223942902
27日(木)	18:00-18:30	世界の女性はいまーその暮らしと仕事(フランス) 講師 中島通子・吉武輝子		府立文化情報センター0644410011
28日(金)	18:00-18:30	「ドイツ・青ざめた母」京都上映会 連絡先 07533518035		京都市社会教育総合センター
29日(土)	18:30-19:00	あこら東海・例会		名古屋市立図書館
30日(日)	18:00-18:30	あこら佐世保・例会		佐世保市立図書館
10月7日(日)	11:00-17:00	「離婚女性の就職作戦」江上節子「離婚に必要な法律と手続き」金住典子		日本社会事業大学(国電原宿駅徒歩5分)
10日(水)	14:00-16:00	あこら山口・例会		福岡市立婦人会館
12日(金)	10:30-12:00	小西綾トークライブ「80歳・未来を語る」駒尺喜美0392995778		森川宅 0832463181
13日(土)	14:00-17:00	あこら京王・例会 「管理教育の問題」		婦人情報センター(セントラルプラザ15F)
14日(日)	14:00-16:00	あこら佐世保・例会		佐世保市立図書館会議室
15日(月)	14:00-16:00	改題・譲渡を超えて		真生会館(国電信濃町駅前)
16日(火)	14:00-16:00	あこら札幌・例会		喫茶「のあ」0115111377
17日(水)	14:00-16:00	あこら九州・例会		福岡市立婦人会館
18日(木)	14:00-16:00	あこら京都・例会		阿部宅 07553133089

